法起寺式伽藍配置をとる古代寺院の集成

貞清　世里

はじめに

わが国では、7世紀後半に古代寺院の数が爆発的に増加することが『扶桑略記』などの史料によって知られており、古代寺院の遺構は東北地方から九州地方にいたるまでに広く分布している。

仏教寺院は、寺の本尊を祀る金堂、釈迦の骨である舎利を安置する塔、経を講じる堂である講堂を中心として、僧侶の居住する僧房、鐘を懸ける鐘楼、経典を収める経楼などの建物によって構成され、その配置を伽藍配置とよぶ。わが国における古代寺院の伽藍配置は、飛鳥寺式伽藍配置、四天王寺式伽藍配置、薬師寺式伽藍配置、川原寺式伽藍配置、法隆寺式伽藍配置、法起寺式伽藍配置など、その形の代表的な寺院名前を標識名とする伽藍形態をとっている。いずれの配置も、南に門(中門)を配し、両妻からのびる回廊内に金堂、塔、講堂などの主要な建物をおき、それらの建物の並び方や数によって区別されている(図1)。7世紀後半においては、一塔一金堂式の法起寺式、法隆寺式伽藍配置をとる寺院が全国的に広く分布し、法隆寺式に比べて法起寺式は地方に多く分布する傾向にある。法隆寺式が王権と結びついた伽藍配置であると解釈される一方、法起寺式については本尊が分かっている例も少なくその信仰性や性格を見出すことが難しいことが指摘されている(菱田2005、石松2007、森2008など)。

そこで本稿では全国の古代寺院のうち、おおむね天平13(741)年の詔にはじまる国分寺・国分尼寺建立による国家仏教政策がとられるにいたるまでの寺院を対象として、発掘調査報告書や関係文献などによって法起寺式伽藍配置をとるとされているものについて改めて集成[1]を行い、一覧化することで、法起寺式をとる寺院全体の様相をつかみたい。

(1)法起寺式伽藍配置

法起寺式伽藍配置は一般的に、一塔一金堂式で回廊内の東に塔、西に南面する金堂を配するものと定義される。法起寺式をとる寺院の初出は奈良県の法起寺であると考えられている(菱田2005、石松2007、森2008など)。法起寺式は南面する金堂をもつことから、釈迦如来の方位性を重視して仏殿の配置を計画していると考えられるものの、法起寺の金堂本尊が弥勒仏であるため、方位性との関係が想定できず、また、法起寺式をとる寺院の本尊がわかる例もごく少数であるため、信仰との対応関係を見出すのは難しいと理解されている(菱田2005)。

筆者は法起寺式について、これまで川原寺式をとると理解されてきた滋賀県の南滋賀町廃寺の西金堂は東西に長い棟であることから南面し、南滋賀町廃寺の西金堂を金堂、中金堂を講堂として、簡略化した形であると考えている[2]。

また、同じく一塔一金堂式で回廊内の西に東面する金堂、東に塔を配する観世音寺伽藍配置は、金堂が南北に長く、東を向く点で区別される。観世音寺式をとる寺院については、国分寺建立以降も含めると15か寺数えられ、その分布などから鎮護国家的性格をもつと考えられる[3]。後述するように法起寺式をとる寺院に比べ数が少ないことが特徴である。

一方、法隆寺式伽藍配置は、一塔一金堂式で回廊内の東に南面する金堂、西に塔を配するものと定義される。法隆寺式の成立については、塔と金堂を同

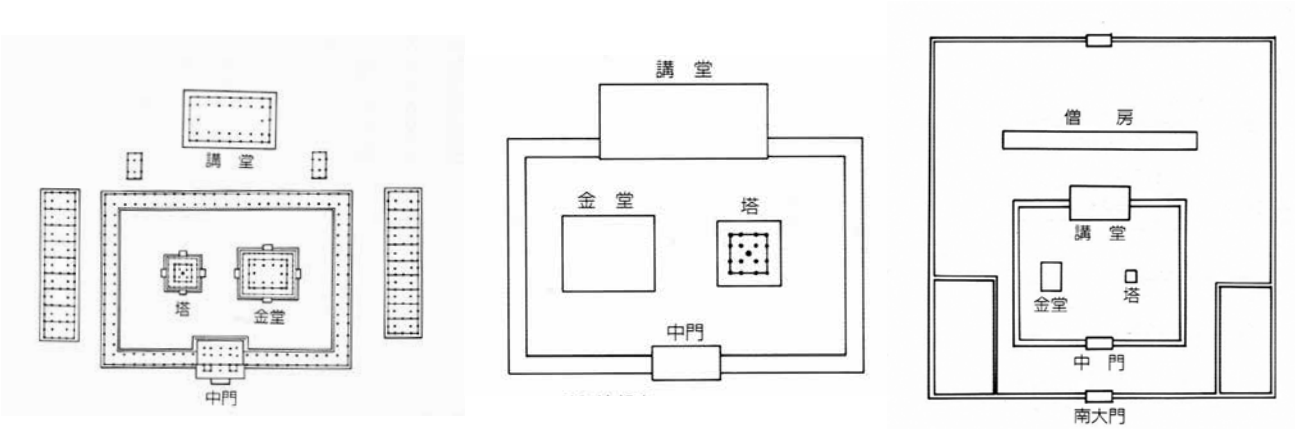


図１　法隆寺式（左）、法起寺式（中）観世音寺式（右）の伽藍配置（森 1998 より作成）

時に礼拝供養する思想の現れであり、百済大寺建立以前に官が管理した寺は存在しないことから、舒明朝に従来とは異なる仏教観をもつに至り、新たな仏教観により百済大寺建立に際して採用されたと考えられている(森2009)。奈良県桜井市の吉備池廃寺は『日本書紀』などに最初の勅願寺としてその名がみられる「百済大寺」に比定されており、法隆寺式をとる最古の例である。630 ～ 640年代初頭に創建されすぐに別の場所へ移転したが、出土遺構や『大安寺資財帳』から、塔は九重塔に推定され、新羅の皇龍寺木塔と同規模である(奈良文化財研究所2003)。これらのことから近年では、百済大寺(吉備池廃寺)が初現の王権の伽藍配置として、畿内に多く分布し、官に採用されたものとして理解されている。

(２)法起寺式伽藍配置をとる古代寺院

法起寺式をとる寺院は、全国で59(60)か寺が集成できる。表１・２に概要を示した。以下にこれらからわかることを述べる。

法起寺式をとる寺院の創建年代と分布

図２は各寺院の創建年代(幅)をあらわしたものである。まず、全体の創建年代は、675年前後～ 700年まで､725年以降に大きく二分される｡全体として、東日本に所在する寺院のほうが西日本のものより創建が後になる傾向にある。

前者を中心にみていくと、638年に法起寺(7)が建てられ、その後、久世廃寺(3)、東畑廃寺(15)が建立される。７世紀中ごろまでに創建されたとされる西琳寺・衣縫廃寺・池田寺跡(9 ～ 11)は、いずれも推定伽藍であり、遺構については不明である。久世廃寺は付近に官衙跡(正道遺跡)が立地する廃寺として知られている｡東畑廃寺は愛知県稲沢市に所在し、尾張国府の北辺に接することなどから、国府付属寺院として理解されている。これらは官衙付属寺院としての性格が想定されている。

７世紀第３四半期ごろまでに龍角寺廃寺(22)、弓波廃寺、末松廃寺(Ⅰ期)(31・32)、寺本廃寺(19)、大宅廃寺・大鳳寺(1・2)、高麗寺廃寺(4)、信太寺(12)、神野々廃寺(48)、石井廃寺、郡里廃寺(51・52)、大海廃寺(42)、寺町廃寺(44)、土師百井廃寺(36)、大寺廃寺(39)が創建される。この時期の情勢としては、639年に舒明天皇により百済大寺(吉備池廃寺)の造営が始まり、初めてわが国の宮廷に仏教が入った。百済大寺の建立は、それまで蘇我氏が主導権を握っていた仏教権力を王家が仏教を取り入れることで奪取するものであった。百済大寺は650年代には完成したとされ、宮と大寺のセット関係の嚆矢となる。

この間､645年の乙巳の変を経て､孝徳天皇が即位、難波宮に遷都される。造寺援助の詔よって、仏教界の管理機構を整備し、天皇により仏教が政治に取り入れられ、国整備の新たなイデオロギーとして仏教が大きな役割を果たすこととなる。このような流れが地方支配と首長層の造寺活動の活発化を生み、王家の仏教採用が与えた影響の一つとして、山田寺系

		国名	県名	所在地	寺名	創建年代	塔基壇一辺	金堂基壇（東西×南北）	講堂基壇	創建理由	川原寺系軒瓦	山田寺系軒瓦	備考
1	畿内	山城	京都府	京都市山科区大宅	大宅廃寺	7C.後半	不明	不明	26×16	—	—	—	古北陸道に近接。水煙の一部が出土。大宅氏氏寺か？法隆寺式または法起寺式が想定されている
2	畿内	山城	京都府	宇治市菟道西中	大鳳寺跡	7C.後半	不明	19.2×16.1	不明	宇治氏によるか	○	—	北陸道沿いに位置する
3	畿内	山城	京都府	城陽市久世	久世廃寺	7C.中葉～後半	13.4	26.7×21.3	23.5×13	—	○	—	付近に久世郡衙(正道遺跡)あり 塼仏、金堂製誕生釈迦如来像出土
4	畿内	山城	京都府	木津川市（相楽郡山城町）	高麗寺跡	667年頃（670年前後）	12.7	16.0×13.4	23.7×19.5	—	●	○	塼仏、鴟尾ほか出土
5	畿内	山城	京都府	木津川市（相楽郡精華町）	里廃寺	白鳳期（7C.後半～8C.初頭）	—	不明×14	—	—	○	—	高麗寺式の複弁八弁蓮華文軒丸瓦、久世廃寺同笵瓦が出土、鴟尾出土
6	畿内	山城	京都府	木津川市	燈籠寺廃寺	7C.後葉	—	32×18	—	—	—	—	高麗寺の対岸に位置する
7	畿内	大和	奈良県	斑鳩町岡本	法起寺	638～685年以降（7C.前半～）	12.4	約16×12.7	29.6×13.8	山背大兄王が聖徳太子遺命により岡本宮を寺とする	—	—	法起寺式標識寺院。 685（天武14）年に法起寺式伽藍計画か
8	畿内	大和	奈良県	北葛城郡河合町	長林寺	7C.半ば～8C.初頭	不明	16.8×13.6	20.5×14.4	推古天皇勅願46か寺の一つ（寺伝）	—	—	金堂は再建期の遺構
9	畿内	河内	大阪府	羽曳野市古市	西琳寺	619年頃	12	—	—	渡来系氏族西文氏の氏寺か	—	○	西文氏創建寺院
10	畿内	河内	大阪府	藤井寺市惣社	衣縫廃寺	7C.初頭～前半	12	—	—	衣縫氏関係か	—	○	『霊異記』の井上寺かといわれている。 東回廊遺構も検出されている
11	畿内	和泉	大阪府	和泉市池田下町	池田寺跡	7C.中葉	不明	不明	不明	池田首の氏寺か	—	○	瓦の散布状況から法起寺式または法隆寺式に推定
12	畿内	和泉	大阪府	和泉市上代町	信太寺跡（観音寺）	7C.後葉	不明	不明	不明	氏族（信太首）と考えられている	—	—	地覆石列が検出され、法起寺式が想定されている
13	東海道	伊勢	三重県	松阪市（一志郡嬉野町）	嬉野廃寺	7C.第4四半期頃	—	—	—	—	—	—	戦前までは基壇、礎石が残存していたと伝わる
14	東海道	伊勢	三重県	松阪市（一志郡嬉野町）	天花寺廃寺	7C.後半～8C.前半	11	20×17.5	—	—	○	—	塼仏出土。金堂と塔出土瓦型式が異なる 掘り込み地業による基壇寸法
15	東海道	尾張	愛知県	稲沢市稲島町	東畑廃寺	7C.中頃	9～10	16.5～17.0×15.5	23.1×18.0	国府付属寺院あるいは中島連氏による創建か	○	—	尾張国府北辺に位置する。塼仏出土。尾張国分寺と同笵瓦が多い。
16	東海道	尾張	愛知県	名古屋市	尾張元興寺	7C.後半	—	—	—	伝承によれば、氏族の氏寺	○	○	寺域の推定から法起寺または法隆寺式に推定 伽藍は未検出、鴟尾出土
17	東海道	駿河	静岡県	清水市	尾羽廃寺	7C.第4四半期	不明	約18.6×14.6	約23×17.2	盧原氏の氏寺か	○	—	盧原氏との関係が指摘、東側隣接地で公的施設の可能性のある建物あり、瓦塔、塼仏出土
18	東海道	駿河	静岡県	島田市	竹林寺廃寺	8C.前葉	6.8	（15.5×13.5）	東西13.6	—	—	○	金堂・講堂は再建建物からの推定、陶硯出土
19	東海道	甲斐	山梨県	笛吹市春日居町	寺本廃寺	7C.後半	5.4	18×10～12	18×14	氏族の氏寺か	—	—	素弁蓮華文軒丸瓦Ⅰ類は法起寺出土瓦に酷似） 塔基壇は、心礎石からの推定
20	東海道	武蔵	神奈川県	川崎市	影向寺	7C.第4四半期（寺伝では739年）	12	18～19×25	—	行基により郡寺として創建か	—	—	谷を挟んで東に橘樹郡家の正倉群が確認 郡家との関連が注目されている
21	東海道	下総	茨城県	結城市上山川	結城廃寺	720年代後半～740年代	11	13.7×11.6	30×17.3	—	—	—	南西回廊跡付近から法隆寺に原型を求められる塼仏・塑像が出土.「法成寺」銘瓦から郡名寺院「法成寺」
22	東海道	下総	千葉県	印旛郡栄町	龍角寺廃寺	7C.第3四半期（寺伝では702年）	9.1	15.65×12.42	—	—	—	○	奈良時代前期の様式をもつ銅造薬師如来座像あり。 寺伝「龍角寺縁起」に(1377)に三重塔修理の記事があり、三重塔の可能性
23	東海道	下総	千葉県	印西市別所	木下別所廃寺	7C.第3四半期	8	13×10	18.6×13.5	—	—	○	三つの堂宇の版築が異なるため、時期が異なると考えられている、講堂が先行か
24	東山道	近江	滋賀県	大津市穴太	穴太廃寺（再建寺院）	～700年前後	13.32	22.14×18.72	27.91×15.44	官の影響をうけた渡来系氏族の氏寺か	○	—	講堂は塔・金堂より後 （8世紀第4四半期）の創建とされる
25	東山道	美濃	岐阜県	関市池尻	弥勒寺跡（池尻廃寺）	7C.後葉～8C.初頭	11.5	14.88×12.4	24×14	ムゲツ氏の氏寺か	○	—	ムゲツ氏の氏寺か、武義郡衙に隣接
26	東山道	美濃	岐阜県	各務原市蘇原	山田寺	7C.後葉～8C.	不明	—	不明	—	○	—	川原寺式がモデルとなった瓦が出土 磚・鴟尾・灯明具・獣脚付火舎出土
27	東山道	飛騨	岐阜県	吉城郡古川町	杉崎廃寺	7C.末～8C.初頭	6.6(8.1)	13.5×10.8	15.0×10.2	—	—	—	伽藍東側に寺院付属雑舎が検出 伽藍内部に玉石が敷かれる、瓦を葺かない寺院
28	東山道	上野	群馬県	前橋市総社町	山王廃寺	7C.第4四半期～8C.初頭	13.6	22×21.7	37.8×24.5	—	—	—	放光寺ヘラ書き瓦出土
29	東山道	若狭	福井県	三方郡美浜町	興道寺廃寺（創建期）	7C.第4四半期～8C.第1四半期	12	16.8×13.8	—	—	—	—	山田寺系軒丸瓦出土
30	東山道	若狭	福井県	三方郡美浜町	興道寺廃寺（再建期）	8C.中葉	15.3	17.8×14.1	18×12	—	—	—	屋根部材は植物素材とされる 灯明皿、塑像螺髪出土

表１　法起寺式をとる寺院集成表１

		国名	県名	所在地	寺名	創建年代	塔基壇一辺	金堂基壇（東西×南北）	講堂基壇	創建理由	川原寺系軒瓦	山田寺系軒瓦	備考
31	北陸道	越前	石川県	加賀市弓波町	弓波廃寺	7C.第3四半期	不明	不明	不明	—	—	—	心礎石検出
32		加賀	石川県	石川郡野々市町末松	末松廃寺（Ⅰ期）	660年代（7C.第3四半期初頭）	8.5×10.5	（19.8×18.4）	—	—	—	—	和同開珎出土 道、江沼、財氏らの共同開発か
33		能登	石川県	七尾市国分町・古府町	能登国分寺跡	7C.末	不明	22.35×15.6	約25×18.6	大興寺→国分寺	—	—	能登臣の私寺であった大興寺を →843(承和10)年昇格して国分寺
34	山陰道	丹波	京都府	京都府亀岡市	丹波国分寺	8C.後半	16.4	（27×18）	32.8×20.9	国分寺	—	—	国分尼寺に近接(450m) 唐招提寺の瓦との関連が指摘されている
35		丹波	京都府	京都府亀岡市	桑寺廃寺	7C.後半	不明	不明	不明	—	—	—	推定法起寺式
36		因幡	鳥取県	八頭郡八頭町（八頭郡郡家町）	土師百井廃寺跡	7C.後半	14	19×16	（33.5×19.3）	—	—	○	塑像螺髪、鴟尾片出土
37		因幡	鳥取県	岩美郡岩美町	岩井廃寺	7C.後半	不明	不明	不明	—	—	—	塔心礎石などから法起寺式が推定 山陰系鴟尾出土
38		因幡	鳥取県	鳥取市国府町岡益	岡益廃寺	7C.末葉	6.6	不明	不明	—	—	—	金堂跡は掘込地業のみ検出。
39		伯耆	鳥取県	西伯郡伯耆町（西伯郡岸本町）	大寺廃寺跡	7C.後半	11.9	13.7×11.9	19×42	—	—	—	伽藍全体が東面する。螺髪、塑像出土 高さ27mの塔に復元、石製鴟尾出土
40		伯耆	鳥取県	倉吉市大原	大原廃寺跡	7C.末ごろ	11	（17×14.8）	19.5×13.4	—	—	—	大御堂廃寺(観世音寺式)と近接200m 塼仏、塑像片などが出土
41		石見	島根県	島根県浜田市	下府廃寺	8C.初め	13.26	15.22×11.96以上	—	—	—	—	国分寺に近接(1.5km)
42	山陽道	美作	岡山県	美作市（英田郡作東町）	大海廃寺	7C.第3四半期～末	10.8	不明	規模不明	—	—	—	金堂は基壇が削平されており、礎石のみ残る 金堂→塔で伽藍整備、鴟尾、面硯、水煙片出土
43		備中	岡山県	総社市上林	備中国分寺	8C.中葉	不明	不明	不明	国分寺	—	—	中門・南門遺構を検出 推定法起寺式
44		備後	広島県	三次市向江田町	寺町廃寺	7C.後半	11	15.74×13.4	25.1×14.7	—	—	—	『霊異記』に記載のある三谷寺に比定
45		備後	広島県	三次市向江田町	備後上山手廃寺	7C.末	—	16.98×14.93	25～28×16.02	—	—	—	寺町廃寺と近接(1.2km) 塔をもたない伽藍か
46		備後	広島県	福山市蔵王町	備後宮の前廃寺	7C.後半	12.6	25.3×15.5	—	—	—	—	塼仏出土
47		備後	広島県	神辺町御領	備後国分寺	8C.中葉頃	18	29.4×20	30×？	国分寺	—	—	
48	南海道	紀伊	和歌山県	橋本市神野々	神野々廃寺	7C.後半	約12	—	—	氏族の氏寺か	○	—	塼仏出土
49		紀伊	和歌山県	橋本市（伊都郡高野口町）	名古曽廃寺	7C.末	約9	不明	—	—	○	—	
50		紀伊	和歌山県	伊都郡かつらぎ町	佐野廃寺（狭屋寺）	8C.（670年代説もあり）	約12	（15×13.5）	24×15前後	—	○	—	『霊異記』の「狭屋寺」に比定 木製燈籠あり、塼仏出土
51		阿波	徳島県	名西郡石井町	石井廃寺	白鳳期（7C.後半～8C.初頭）	10	14×12.12	—	—	—	—	
52		阿波	徳島県	美馬市美馬町	郡里廃寺	白鳳期（7C.後半～9C.初頭）	12.1？	約15×12	—	—	—	—	青銅製水煙の破片出土か
53		讃岐	香川県	東かがわ市（大川郡白鳥町）	白鳥廃寺	7C.後半（675～740年頃）	約12.3	7以上×9	—	—	—	—	南海道に面する
54		讃岐	香川県	香川県坂出市	開法寺	7C.末～8C.初頭	約11.2	不明	不明	—	—	—	国府付属寺院として機能
55	西海道	筑前	福岡県	太宰府市大字南字	般若寺跡	7C.末～8C.初頭	11.9	—	—	—	—	—	大宰府政庁に近接(800m) 近年まで残っていた基壇による推定
56		筑前	福岡県	飯塚市大分	大分廃寺	7C.末～8C.初頭	約13	—	—	—	—	—	地形や溝などからの推定 鋳造関連遺物出土
57		豊前	福岡県	田川市	豊前天台寺跡	7C.末ごろ～	不明	（15.15×13.）	（27.6×17.4）	—	—	—	回廊廃絶後に塔を建立、礎石のみ検出
58		肥後	熊本県	玉名郡玉東町	肥後稲佐廃寺	8C.中葉	不明	（13.6×12.12）	（18.18×12.12）	—	—	—	
59		肥後	熊本県	八代市興善寺町	興善寺廃寺	8C.後半	—	不明	不明	—	—	—	八代郡寺か

寺名アミは金堂後方に講堂が位置するもの、遺構未検出は—、礎石のみなど規模不明は不明とした。
基壇の値は推定値を含む（単位：m）

表２　法起寺式をとる寺院集成表２

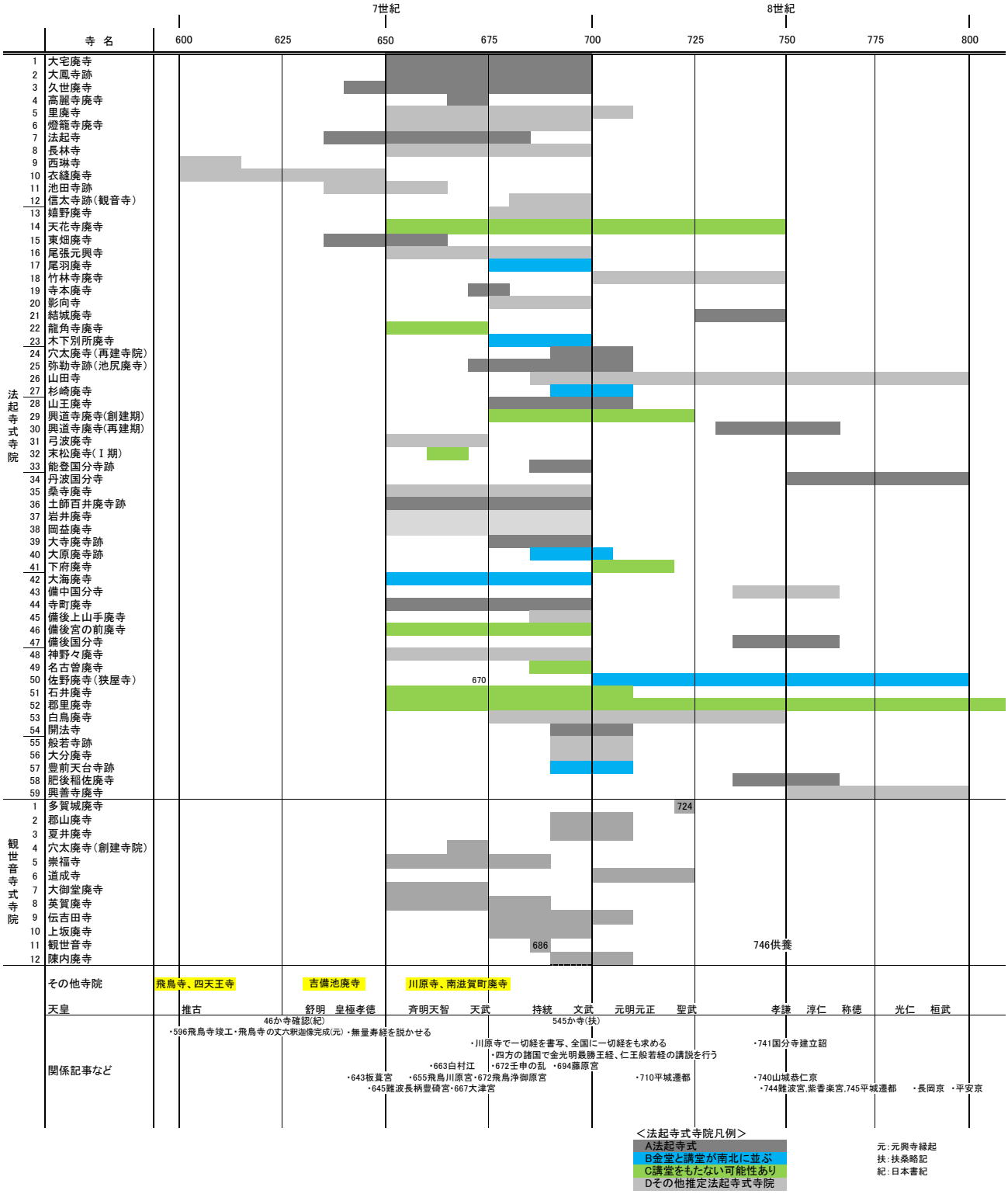


図２　法起寺式・観世音寺式をとる寺院の創建年代と関連事項

の単弁軒丸瓦が全国でみられる。

7世紀第4四半期、天武朝には、673年に僧官制の改革、大官大寺の整備や、食封の制限が行われる。685年には「諸国に、家毎に、仏舎を作りて、乃ち仏像および経を置きて、礼拝供養せよ」という詔が発布される。692年段階で、全国で545か寺が数えられており(『扶桑略記』)、諸国(郡単位)の地方寺院の造営が活発化したことが想定される。694年には諸国に金光明経を置かせ、701年に僧尼令が説かれる。鎮護国家的な仏教思想とともに僧尼の統制が図られている。

およそこの時期の寺院として、杉崎廃寺、山王廃寺(27・28)、木下別所廃寺、穴太廃寺(23・24)、影向寺(20)、尾羽廃寺(17)、興道寺廃寺(29)、嬉野廃寺、名古曽廃寺(49)、備後上山手廃寺(45)、大原廃寺(40)、白鳥廃寺、開法寺、般若寺、大分廃寺、豊前天台寺(53～57)が建てられている。

関東から九州に至るまで全国の広範囲に広がるが、畿内一帯ではあまり建てられていないことが特徴である。その中で、穴太廃寺が観世音寺式から法起寺式として再建されていることには注目される。地方に目を向けると、名古曽廃寺、備後上山手廃寺は7世紀第3四半期に造営された法起寺式寺院に近接して建てられている。また、影向寺は橘樹郡衙に近接(400m)し、開法寺については、讃岐国府の一角に建てられているなど、地方の支配と仏教の結びつきもみえる。

法起寺をとる寺院の分類と伽藍の特徴

これら法起寺式をとる寺院は、伽藍の特徴から大きく4分類することができる(図2・3)。A法起寺式、B金堂と講堂が南北に並ぶもの、C講堂をもたない伽藍計画であった可能性が指摘されているもの、D推定法起寺式(明確な遺構が検出されていないものの法起寺式と推定されるもの)である。

＜A法起寺式寺院＞ 大宅廃寺、久世廃寺、高麗寺跡、法起寺、長林寺、東畑廃寺、寺本廃寺、結城廃寺、穴太廃寺、弥勒寺跡、山王廃寺、興道寺廃寺(再建期)、能登国分寺跡、丹波国分寺、土師百井廃寺、大寺廃寺、寺町廃寺、備後国分寺、肥後稲佐廃寺である。畿内、地方寺院、国分寺と実に地域も時期もバリエーション豊かに採用されている。大寺廃寺のみ伽藍全体が東面する。

＜B金堂と講堂が南北に並ぶもの＞ 尾羽廃寺、木下別所廃寺、杉崎廃寺、大原廃寺跡、大海廃寺、佐野廃寺、豊前天台寺跡がある。

東伯耆地方の白鳳期の寺院には、大原廃寺(法起寺式)、大御堂廃寺(観世音寺式)、斎尾廃寺(法隆寺式)のいずれも塔、金堂間の南北軸から金堂側に講堂をずらしているという指摘があり、類似例として天台寺跡と杉崎廃寺(法起寺式)が挙げられている(倉吉市教育委員会1999)。また、双塔式伽藍の出雲地方への伝播について、金堂をはさんで東西に塔をもつ変則的な来美廃寺の伽藍の造営に100年前後という時間を要していることから、一時的に塔の西に金堂を配す場合が想定されている[4](妹尾2011)。これらの指摘からは、それぞれの建物の年代などを再考する必要があるが伽藍中軸線上に講堂中軸をあわせる法起寺式(A)と金堂と講堂が南北に並ぶ法起寺式(B)の二つのパターンがある可能性を考えさせる。加えて、Bの講堂が金堂側にずらされている例には法起寺式が多いということも注目される。

＜C講堂をもたない伽藍計画であった可能性が指摘されているもの＞ 天花寺廃寺、龍角寺廃寺、興道寺廃寺(創建期)、末松廃寺(Ⅰ期)、下府廃寺、備後宮の前廃寺、名古曽廃寺、郡里廃寺である。

講堂は仏法を講じる堂としての役割をもち、金堂の後方、伽藍中軸線上に設置されることが多い。金堂より広い空間を確保し、僧域を構成する建物として位置づけられる。奈良時代以降、法会の際には講堂と周辺は儀礼空間として機能していた(坂詰2003)。

Cのうち創建時期が7世紀後半～8世紀初めのものに末松廃寺(Ⅰ期)がある。660年代に創建されたが、建て替え途中で瓦が弓波廃寺へ供給されている。塔の規模が大きいことが特徴であるが、講堂をもたないことと関係があるかは不明である。興道寺廃寺では8世紀中葉の再建寺院において、講堂が建立されている。

天花寺廃寺では、金堂は７世紀後半、塔は８世紀初めに建てられ、金堂・塔の北辺は揃えられたと考えられている（山田2008）。金堂を中心に塼仏が出土しており、大御堂廃寺（観世音寺式）と同系であることが指摘されている（鳥取県立博物館2003）。下府廃寺では、金堂・塔の北側には講堂を配置する空間がないことから、講堂が配されない可能性のほか、別の場所に設けられていた可能性も考えられている。出土瓦のうち軒丸瓦で大原廃寺との類似が指摘されている（浜田市教育委員会1993）。備後宮の前廃寺では、周囲の地形から講堂が建てられなかった可能性が指摘されている。軒丸瓦、軒平瓦のほか、文字瓦「軽部君黒女」「紀臣石女」などが出土しており、尼寺の可能性も考えられている（湊・亀田2006）

＜Ｄ推定法起寺式＞　上記以外のものは、推定法起寺式として分類し図3ではＡと同じ記号で示した。大鳳寺跡、里廃寺、燈籠寺廃寺、西琳寺、衣縫廃寺、池田寺跡、信太寺跡、嬉野廃寺、尾張元興寺、竹林寺廃寺、影向寺、山田寺、弓波廃寺、桑寺廃寺、岩井廃寺、岡益廃寺、備中国分寺、備後上山手廃寺、神野々廃寺、白鳥廃寺、開法寺、般若寺跡、大分廃寺、興善寺廃寺である。これらには行政発掘以前の調査や伝承によって法起寺式が推定されたものが多い。地形や土壇の痕跡、位置関係から伽藍配置が想定されているものや塔礎石などの塔の痕跡による推定も含んでいる。Ａと同様に時期幅、分布範囲ともに広いが、創建年代は７世紀後半～ ８世紀初頭に比定されているものが多い傾向にある。

川原寺式軒瓦と山田寺式軒瓦　地方においては７世紀後半に寺院の増加がみられ、この時期に創建される地方寺院では、大和の寺院に用いられる瓦を標識とした瓦を採用していることが広く知られている。川原寺式、山田寺式、法隆寺式、紀寺式などがその代表例で、元の型式に極めて近い例から模倣によって変形したものまであるが、瓦当研究において型式として整理されている。また、山田寺式軒瓦は東日本に多く分布し、近畿地方やそのほかの地域には不均衡に分布する一方、川原寺式軒瓦はほぼ全国的に分布することが指摘されている（菱田1994）。

図３　法起寺式をとる寺院の分布

法起寺式をとる寺院のなかで、川原寺式軒丸瓦がみられるものには、穴太廃寺、高麗寺、里廃寺（高麗寺式）、大鳳寺、久世廃寺（高麗寺式）、天花寺廃寺、神野々廃寺、名古曽廃寺、佐野廃寺、東畑廃寺、尾張元興寺、弥勒寺、尾羽廃寺がある（古代瓦研究会編2009）。南山城においては、川原寺式軒瓦が多くの寺院にみられる。特に相楽郡・久世郡には密集しており、壬申の乱の功績や交通路として木津川を掌握するといった意義づけがなされてきたが、この地域においては、高麗寺の創建を契機として展開していく。高麗寺からは川原寺創建瓦と同笵の瓦が見つかっており、そこから派生した一群は高麗寺式とよばれ、在地化し、里廃寺、久世廃寺などに分布していくことが指摘されている（古代瓦研究会編2009、中島2010）。

また、全体的な傾向として寺院の伽藍配置に拘わらず、美濃地域は特に多く川原寺式軒瓦がみられる。南海道でも四国は川原寺式瓦自体の数が少ない。西海道では大分県の宇佐地域にみられる。川原寺式軒瓦をもつ寺院の伽藍には法起寺式のほか、法隆寺式、四天王寺式など多様で、特に関西地方は法隆寺式・四天王寺式が多く、中国地方においては四天王寺式、観世音寺式がみられる。このほか、崇福寺（観世音寺式）、南滋賀町廃寺では、穴太廃寺で見つかった

燈籠寺廃寺	0.5625
備後宮の前廃寺	0.612648221
寺本廃寺	0.666666667
丹波国分寺	0.666666667
川原寺西金堂	0.67
吉備池廃寺金堂	0.676
備後国分寺	0.680272109
能登国分寺跡	0.697986577
観世音寺金堂	0.75
～8世紀前半	0.752
木下別所廃寺	0.769230769
畿内	0.773
C:講堂がない可能性あり	0.78481794
尾羽廃寺	0.784946237
下府廃寺	0.785808147
南滋賀町中金堂	0.79
興道寺廃寺(再建期)	0.792134831
龍角寺廃寺	0.793610224
法起寺	0.79375
久世廃寺	0.797752809
杉崎廃寺	0.8
郡里廃寺	0.8
長林寺	0.80952381
～7世紀前半	0.82
飛鳥寺中金堂	0.82
川原寺中金堂	0.82
～7世紀後半	0.821
興道寺廃寺(創建期)	0.821428571
山田寺式軒丸をもつ寺院	0.823

全法起寺式平均	0.827
8世紀前半～	0.829
弥勒寺跡(池尻廃寺)	0.833333333
高麗寺跡	0.8375
大鳳寺跡	0.838541667
B:金堂の北に講堂	0.8370758
土師百井廃寺跡	0.842105263
畿内以外	0.844
穴太廃寺(再建寺院)	0.845528455
結城廃寺	0.846715328
川原寺式軒瓦をもつ寺院	0.847
寺町廃寺	0.85133418
飛鳥寺東金堂	0.86
飛鳥寺西金堂	0.86
影向寺	0.862068966
石井廃寺	0.865714286
大寺廃寺跡	0.868613139
大原廃寺跡	0.870588235
竹林寺廃寺	0.870967742
天花寺廃寺	0.875
備後上山手廃寺	0.879269729
肥後稲佐廃寺	0.891176471
豊前天台寺跡	0.897689769
南滋賀町西金堂	0.9
佐野廃寺(狭屋寺)	0.9
東畑廃寺	0.911764706
末松廃寺(Ⅰ期)	0.929292929
山王廃寺	0.986363636
白鳥廃寺	1.285714286

全法起寺式平均	0.827
～7世紀前半	0.82
～7世紀後半	0.821
～8世紀前半	0.829
8世紀前半～	0.752
畿内	0.773
畿内以外	0.842
B:金堂の北に講堂	0.709
C:講堂がない可能性あり	0.863
川原寺式軒瓦をもつ寺院	0.847
山田寺式軒丸をもつ寺院	0.654
飛鳥寺中金堂	0.82
飛鳥寺東金堂	0.86
飛鳥寺西金堂	0.86
川原寺中金堂	0.82
川原寺西金堂	0.67
南滋賀町中金堂	0.79
南滋賀町西金堂	0.9
観世音寺金堂	0.75
法起寺金堂	0.794
吉備池廃寺金堂	0.676

表３　法起寺式をとる寺院および関連寺院の金堂基壇の南北 / 東西比

川原寺式軒瓦との関係性が指摘されているほか下野薬師寺においても川原寺式軒瓦がみられる。法起寺式をとる寺院は、畿内より西側にも多く全国的に分布しているが、そのなかでも川原寺式軒瓦がみられる寺院は畿内よりも東側に多く分布することがその大きな特徴として指摘できる。

一方、山田寺軒瓦は、西琳寺、池田寺、衣縫廃寺、高麗寺、尾張元興寺、竹林寺廃寺、龍角寺、木下別所廃寺、土師百井廃寺で確認されている。畿内と愛知県、静岡県、千葉県の分布であり、山田寺式については(菱田1994、古代瓦研究会編2005)で指摘されている内容を追認できる。

(３)法起寺式をとる寺院の金堂基壇

大和の主要寺院の金堂と、法起寺式をとる寺院、法起寺式をとる寺院のうち山田寺、川原寺系の瓦が出土する寺院の金堂基壇の南北／東西規模について、比較を試みた[5](表3)。

飛鳥・白鳳時代の寺院金堂は一般的に５間×４間の柱間で、建物の桁行と梁行の比はほぼ13：10となる(宮本1979)。基壇規模と建物規模を同様に扱うことはできないが、この場合、梁行／桁行は0.769となる。まず、今回集成した全法起寺式の平均は0.827となった。

川原寺西金堂0.67と法隆寺式をとる最初の寺院とされる吉備池廃寺0.676は近い値である。南滋賀町廃寺の西金堂は0.9で、より正方形に近い形となる。法起寺式をとる寺院の中で、法起寺の0.794に近いのは龍角寺廃寺0.7936、久世廃寺の0.977である。

0.79台では、南滋賀町廃寺中金堂0.79、興道寺廃寺(再建期)0.792、久世廃寺0.797があげられる。高麗寺においては、伽藍計画において当初川原寺式を志向したことが想定されており、法起寺よりも川原寺、南滋賀町廃寺との数値の類似が指摘されている(山城町教育委員会編1989)。また先に触れたように出土

瓦において近江との関連が指摘されている。

次に、前掲のB、Cタイプについてみる。Bの金堂の北に講堂を配するタイプのものとしては、木下別所廃寺0.769、尾羽廃寺0.784、杉崎廃寺0.8、大原廃寺0.87、豊前天台寺跡0.897、佐野廃寺0.9となる。これらの創建時期は佐野廃寺がやや後出するものの、おおむね7世紀第4四半期ごろ～8世紀初頭である。Bの平均は0.837である。Cでは、備後宮の前廃寺0.612、下府廃寺0.785、郡里廃寺0.8、興道寺廃寺(創建期)0.821、穴太廃寺(再建)0.845、石井廃寺0.865、末松廃寺(Ⅰ期)0.929となる。Cの平均は0.784となる。Bよりも数値の幅が広いのが特徴といえよう。いずれも同じタイプのなかで共通の特徴を見出すのは難しい。

金堂建物の柱間については、地方においては5間×4間のものと、7間×4間のものがほぼ同程度分布する(宮本1979)。平城京においては、薬師寺金堂や唐招提寺金堂や興福寺東西金堂など、金堂が中門の正面に配されるため、規模を大きくしてその壮観を示そうとしたもので、細長い平面をとることからは、回廊との連続性を重んじた意匠であると解釈されている。近年の古代寺院金堂基壇の集成分析では、7世紀末には0.8台のものと0.6台のものが混在していることから、7世紀から8世紀にかけて金堂の形状が徐々に変化していった可能性が指摘されており(大川2008)、先行研究での指摘が改めて確認されている。

法起寺式をとる寺院においても0.6台～0.8台が混在しているが、大まかな時期別にみると、7世紀代では0.821、8世紀前半まででは0.829、8世紀前半以降～では0.752となり、古代寺院全般と比較すると、より東西・南北規模が近い数値の正方形に近い形に寄った結果となった。このことは、東西に長い金堂を配し壮観を示す意匠とは対照に、塔と金堂を並置することに重きをおいた傾向によるものと解釈できるのではないだろうか。

また、吉備池廃寺(法隆寺式)と法起寺式寺院全体平均は遠い値となったが、これは吉備池廃寺の金堂がこの時期の金堂としては破格に大きいことによるものとも考えられる。吉備池廃寺の塔の規模は、一辺32mに推測されている(奈良文化財研究所2003)。法起寺式をとる寺院の塔の基壇規模(一辺)は、法起寺が12.4m、比較的大型の穴太廃寺が13.32m、興道寺廃寺が15.3mであり、吉備池廃寺のような規模は法起寺式には類例をみない。しかし、吉備池廃寺金堂基壇の東西規模と塔の一辺は37m：32mで、金堂の東西基壇は、塔の1.15倍程度となる。法起寺の金堂基壇規模が塔の1.29倍であるので、バランスとしては塔と金堂を同列に扱っているとも考えられる。

久世廃寺	1.993	興道寺廃寺 (創建期)	1.4
高麗寺跡	1.26	興道寺廃寺 (再建期)	1.163
法起寺	1.29	末松廃寺(Ⅰ期)	2.329
天花寺廃寺	1.818	丹波国分寺	1.646
東畑廃寺	1.7	土師百井廃寺跡	1.357
竹林寺廃寺	2.279	大寺廃寺跡	1.151
寺本廃寺	3.333	大原廃寺跡	1.545
影向寺	2.417	下府廃寺	1.148
結城廃寺	1.245	寺町廃寺	1.431
龍角寺廃寺	1.72	備後宮の前廃寺	2.008
木下別所廃寺	1.625	備後国分寺	1.633
穴太廃寺 (再建寺院)	1.662	佐野廃寺 (狭屋寺)	1.25
弥勒寺跡 (池尻廃寺)	1.294	石井廃寺	1.4
杉崎廃寺	1.667	郡里廃寺	1.24
山王廃寺	1.618	平　均	1.642137931

表4　法起寺式寺院の金堂 / 塔の基壇東西規模

法起寺式をとる寺院のうち、塔と金堂の基壇規模が確認されている寺院について、それぞれの基壇東西規模の比較を行った(表4)。数値が小さいほど、塔と金堂の基壇規模が近い値となる。これらの平均は1.64でおよそ塔の1.5倍強の金堂東西幅である。法起寺式の1.29と近いものとしては、弥勒寺跡1.294、高麗寺跡1.26があげられる。

以上から、法起寺式をとる寺院の基壇東西比は、古代寺院全般よりもやや東西幅が短い傾向にあるものの、法起寺、法隆寺式寺院の初出である吉備池廃寺、二金堂式の川原寺式、南滋賀町廃寺のなかで、南滋賀町廃寺中金堂と畿内の法起寺式寺院の金堂南北/東西規模が近い値であることを指摘しておく。

その他の特徴　このほかに、外郭施設として掘立柱柵をもつものがみられた。寺院は宗教施設であり、回廊で囲まれた空間は聖域として意識される。回廊の外側を掘立柱柵で囲むことは防御施設としての役割を帯びていたことを意味する指摘（甲斐2010）もある。Bタイプの杉崎廃寺は回廊をもたず掘立柱塀で区画している。また、寺院と官衙が計画的に配置された弥勒寺でも、南門施設が掘立柱塀であるという見解がある。このような施設は、畿内でも四天王寺などでみられるほかに法起寺式の寺院以外でも、南滋賀町廃寺や観世音寺式をとる寺院で確認されており、寺院にみられる軍事的な要素の場合があるとして注目されている。

また造営技術の研究では、瓦積み基壇の採用について近江と大和を結ぶ地域で従来の大和の寺院の影響を受けたものが展開することが指摘されている（網2005）。法起寺式寺院では、高麗寺、大鳳寺、大宅廃寺、久世廃寺、穴太廃寺、丹波国分寺、大寺廃寺、大原廃寺、寺町廃寺、備後上山手廃寺に瓦積み基壇がみられる。

基壇の版築と堀込地業の工法分析では、７世紀後半における爆発的な寺院数の増加に伴い、寺院の格式に応じた工法が適用されたとする見解（青木2016）がある。そのなかで、寺院の増加に呼応して適応されたＢ´工法を用いるものとして天花寺廃寺（金堂）、高麗寺跡（金堂・塔）、大原廃寺（塔）、般若寺跡（塔）があげられている。飛鳥地域を中心として七堂伽藍を備えた本格的寺院に用いられるＢ工法がみられるものとして、山王廃寺（金堂・塔）があり、それに準ずるＡＢ工法を用いるものとして大分廃寺（塔）、弥勒寺（金堂）、寺本廃寺（塔ほか）が述べられている。青木の指摘するＢ・ＡＢ工法を採用したものには、今回、法起寺式Ａタイプに分類したものが多いことが指摘できる。

法起寺式と法会　法起寺式とならんで東西に金堂・塔を配する法隆寺式では吉備寺廃寺（百済大寺）が最も古い。吉備寺廃寺の伽藍は、中軸から西寄りの位置に中門が位置する（奈良文化財研究所2003）。その理由について、菱田哲郎は塔と金堂を並立させる伽藍が成立する際に、中門の位置が金堂全面を意識したことを示すとした。のちの大官大寺、薬師寺、東大寺では中門が金堂の全面に位置していること、いずれも大寺院であり中門が法会の際に重要な役割を果たしていることから中門の機能が考慮されたと分析、高麗寺は過渡的な様相を示していると評価し、その後の護国法会との関係から長く中核寺院として機能したとする（菱田2019）。法会については、多くの地方寺院が法起寺式をとっていることから、地方寺院には行われている法会で用いられる経典には『日本霊異記』等の例から『法華経』『涅槃経』『金剛涅槃経』が多く、護国の経典である『金光明最勝経』が少ないこと、法会の目的としては、追善供養、懺悔悔過が主で、現世利益的な信仰が中心であり、古代東アジアにおける仏教的な世界と相違ないことが指摘されている（三舟2019b）。その事例の一つには佐野廃寺（法起寺式）があり、地方の集団における信仰が垣間見える。この様子からも、観世音寺式をとる寺院と法起寺式とは明確に区別がなされていたことが看守される。

法起寺式をとる寺院には、金堂と塔が南北に並ぶ形、伽藍中軸線から西寄りに講堂が位置する形がみられる。法起寺式Bタイプとした尾羽廃寺、杉崎廃寺、大原廃寺、大海廃寺、佐野廃寺、豊前天台寺である。これらのうち中門が金堂を意識した可能性があるものは、杉崎廃寺、大海廃寺である[6]。杉崎廃寺が二重基壇をもち玉石敷の伽藍であること、佐野廃寺が高麗寺と同様、「霊異記」に登場することは注目される。

このように、法起寺式をとる寺院は、これまでの検討のなかでは特定の信仰と結びつけることは難しい。法起寺式は７世紀半ばまでの畿内や中央の動きをふまえ、畿内の高麗寺などでは早い段階で採用され、瓦とともに周辺に広まっていく。隣接した寺院の存在や、創建後の官とのつながり、地方における長期間の流行は、造寺主体となった氏族や勢力の世代交代を経てもなお、法起寺式を採用したようにも想像できる。

各地で造寺活動が行われるなかで、官的要素や護国思想に限らず、現世利益や地域・氏族的なつながりに寄り添った汎用性の高さからは、在地的な仏教信仰の基盤として、安置された本尊を礼拝・供養することがより容易な南面金堂(法起寺式)が生じたことが想定できるのではないだろうか。

(4)今後の課題と展望

山林寺院に注目している上原真人は、大津宮に位置する南滋賀町廃寺と崇福寺をセット関係でとらえ、平安時代前期の真言宗寺院における山上の寺＋山麓の寺の関係が7世紀にさかのぼる事例としている(上原2011)。南滋賀町廃寺は筆者が法起寺式の祖型とした寺院、崇福寺は観世音寺式寺院であり、直線で約1.5㎞の位置にある。上原はこのほかに、鳥取県の大原廃寺：山地(法起寺式)と大御堂廃寺：平地(観世音寺式)、愛知県の北野廃寺：平地(四天王寺式)と真福寺東谷遺跡(山地：伽藍不明)の2例を示し、平地寺院と山林寺院がセットで機能するという情報が7世紀後半に各地に伝播したと想定している。大原廃寺と大御堂廃寺は約2.5㎞に位置し、瓦が同笵関係にあることなど、南滋賀町廃寺と崇福寺の関係に似ていることが指摘されている。

また、今回は詳細に触れていないが、法起寺式をとる寺院には法起寺のほかにも、佐野廃寺、備後上山手廃寺については尼寺の可能性があるとされる。仏教公伝以後、聖武天皇による国分寺・国分尼寺建立詔までの間には多くの女性天皇がおり、それぞれ仏教政策を進めてきた。畿内においては、多くの尼寺が確認されており、地方寺院においても尼寺が営まれたことが想定される。今回挙げた法起寺式をとる寺院のなかにも一定数の尼寺が存在する可能性がある。

これまでに述べてきたように、法起寺式をとる寺院は、全国広範囲に長期間にわたって分布し、特徴的な性格を抽出しづらい。今後、地域別に他の伽藍配置をとる寺院とのセット関係や、伽藍配置の採用と工人の移動等の人々の動きなど多面的なアプローチが必要と考える。

＜引用・参考文献＞

図表についても以下を参考に作成した。図版のうち、記載のないものは筆者作成である。

愛知県史編さん委員会2010『愛知県史』資料編4考古4飛鳥～平安. 愛知県
青木和夫ほか1990『続日本紀』二. 岩波書店
青木敬2016「寺院造営技術からみた白鳳」『國學院雑誌』117号　國學院大學
朝倉秋富・名越勉・倉吉博物館編1978『倉吉の文化財』倉吉市教育委員会
網伸也1999「大宅廃寺再考」『瓦衣千年』森郁夫先生還暦記念論文集刊行会
網伸也2005「日本における瓦積基壇の成立と展開--畿内を中心として」『日本考古学』第20号. 日本考古学会
網干善教2006『大和の古代寺院跡をめぐる』学生社
石松好雄2007「南海道・西海道の寺院造営」『シンポジウム報告書天武・持統朝の寺院造営-西日本-』帝塚山大学考古学研究所
伊東照雄2008『下関市史』原始・中世　下関市
稲沢市史編纂委員会1983『新修稲沢市史 資料編6』新修稲沢市史編纂会事務局
稲沢市史編纂委員会1990『新修稲沢市史 本文編』新修稲沢市史編纂会事務局
猪股喜彦・瀬田正明・古淵忠秋2013「甲斐国分寺」『国分寺の創建 組織・技術編』吉川弘文館
上原真人2011「国分寺と山林寺院」『国分寺の創建 思想・制度編』吉川弘文館
宇治市教育委員会1984『大鳳寺跡第4次発掘調査概報』宇治市教育委員会
宇治市教育委員会1985『大鳳寺跡第5次発掘調査概報』宇治市教育委員会
宇治市教育委員会1986『大鳳寺跡第6次発掘調査概報』宇治市教育委員会
宇治市教育委員会編1987『大鳳寺跡発掘調査報告』宇治市教育委員会
宇治市教育委員会2006『菟道遺跡 (菟道籔里14) 発掘調査報告書-大鳳寺跡西外区の発見-』宇治市教育委員会
梅原三千ほか1961『津市史』第三巻・第五巻. 津市役所
大川敬夫1988「地形からみた尾羽廃寺」『考古学叢考』斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会編
大川敬夫2008『尾羽廃寺跡の研究』同成社
大阪府教育委員会1982『観音寺遺跡発掘調査報告書』大阪府教育委員会
大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会1989『(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第43輯 近畿自動車道和歌山線建設に伴う池田寺遺跡-発掘調査報告書-』大阪府埋蔵文化財協会
大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会1990『(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第54輯 池田寺遺跡Ⅱ近畿自動車道松原海南線建設に伴う発掘調査報告書』大阪府埋蔵文化財協会
大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会1991『(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第65輯 池田寺遺跡Ⅲ近畿自動車道松原海南線建設に伴う発掘調査報告書』大阪府埋蔵文化財協会
大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会1991『(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第71輯 池田寺遺跡Ⅳ近畿自動車道松原海南線・都市計画道路泉州山手線・泉中央丘陵新住宅市街地開発事業に伴う発掘調査報告書』大阪府埋蔵文化財協会
大阪府立近つ飛鳥歴史博物館2013『考古学からみた推古朝』大阪府立近つ飛鳥博物館
大津市教育委員会2007『南滋賀町廃寺発掘調査報告書』大津市教育委員会
岡崎健一2008「丹波国分寺とその前史」『京都府埋蔵文化財情報』107号. 財団法人京都府埋蔵文化財研究センター
小笠原好彦2005『日本古代寺院造営氏族の研究』東京堂出版
岡田容子2004「備後伝吉田寺について-近年の発掘調査から-」『考古論集』河瀬正利先生退官記念論文集. 河瀬正利先生退官記念事業会
岡本東三1993「下総龍角寺の山田寺式軒瓦について-その分布が意味するもの-」『千葉史学』22号. 千葉歴史学会
岡山県文化財保護協会1978『大海廃寺緊急発掘調査報告書』岡山県教育委

員会
岡山県文化財保護協会1979『大海廃寺緊急発掘調査報告書Ⅱ』岡山県教育委員会
小川貴司2010「鐙瓦から見た山田寺」『山田寺』各務原市文化財調査報告書第50号 各務原市教育委員会
奥村清一郎・福山敏男1976「久世廃寺発掘調査概報」『城陽市埋蔵文化財調査報告書第４集』城陽市教育委員会
甲斐弓子2010『わが国古代寺院にみられる軍事的要素の研究』雄山閣
加賀市教育委員会1978『弓波廃寺跡範囲確認発掘調査報告』加賀市教育委員会
各務原市埋蔵文化財調査センター 2010『各務原市文化財調査報告書第50号山田寺跡第１･２･３･４次範囲確認調査報告書』各務原市教育委員会
香川県教育委員会編1983「白鳥廃寺」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和57年度』香川県教育委員会
香川県教育委員会編1983『新編 香川叢書』考古編. 香川県教育委員会
香川県教育委員会編1996「白鳥廃寺」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成７年度』香川県教育委員会
香川県埋蔵文化財センター 2010『讃岐国府を探る』香川県埋蔵文化財センター
梶原義実2010『国分寺瓦の研究 考古学からみた律令期生産組織の研究』名古屋大学出版会
春日居町教育委員会1988『寺本廃寺第１･２･３次発掘調査報告書』春日居町教育委員会
亀岡市文化資料館2005『シンポジウム丹波国分寺を考える』記録集Ⅰ. 亀岡市文化資料館
亀田修一1995「瀬戸内海沿岸地域の古代寺院と瓦」『瀬戸内海地域における交流の展開』古代王権と交流６. 名著出版
亀田修一2007「山陽道・山陰道の寺院造営」『シンポジウム報告書 天武・持統朝の寺院造営-西日本-』帝塚山大学考古学研究所
亀田修一2015「考古学からみた仏教の多元的伝播」『仏教文明の展開と表現』勉誠出版
亀田博2000『日韓古代宮都の研究』学生社
河合英夫・島田敏男1995「飛騨の伽藍-杉崎廃寺の調査-」『月刊文化財』３月号. 第一法規
川上貞夫1966『岡益の石堂』矢谷印刷所
川崎市教育委員会2014『橘樹官衙遺跡群の調査』川崎市教育委員会
川畑進・松本豊胤1977「開法寺跡（香川県）」『佛教藝術』116. 毎日新聞社
川本義継1998「仏教の伝播と初期寺院」『豊津町史』豊津町
木津川市教育委員会2008『史跡高麗寺跡第８次発掘調査概報』木津川市教育委員会
木津川市教育委員会2010『史跡高麗寺跡第10次発掘調査概報』木津川市教育委員会
九州歴史資料館1980『般若寺跡 大宰府史跡昭和54年度発掘調査概報別冊』九州歴史資料館
九州歴史資料館1988『般若寺跡Ⅱ 大宰府史跡昭和62年度発掘調査概報別冊』九州歴史資料館
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課編2010『飛鳥白鳳の甍～京都市の古代寺院～』京都市文化財ブックス第24集. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
京都府教育委員会1958『大宅廃寺発掘調査概報』京都府教育委員会
郡家町教育委員会1979『土師百井廃寺跡発掘調査報告書Ⅰ』郡家町教育委員会
葛野泰樹2002「寺院配置からみる大津宮遷都」『日本仏教の形成と展開』宝蔵館
久保穣二朗2017「土師百井廃寺の瓦について」『調査研究紀要８』鳥取県埋蔵文化財センター
熊本県教育委員会1980『興善寺Ⅰ』熊本県教育委員会
熊本県教育委員会1980『興善寺Ⅱ』熊本県教育委員会
熊本県教育委員会1982『肥後国分僧寺Ⅰ』熊本県教育委員会
倉吉市教育委員会1999『史跡大原廃寺発掘調査報告書』倉吉市教育委員会
黒崎直2010「近江大津宮の再検討-その中軸線と南滋賀町廃寺をめぐって-」『坪井清足先生卒寿記念論文集』下. 坪井清足先生の卒寿をお祝いする会
小出紳夫・西川修一・山路直充1993「千葉県印西町木下別所廃寺の鎧瓦」『古代』96号. 早稲田大学考古学会
古代瓦研究会編2000『古代瓦研究Ⅰ』奈良文化財研究所
古代瓦研究会編2005『古代瓦研究Ⅱ』奈良文化財研究所
古代瓦研究会編2009『古代瓦研究Ⅱ』奈良文化財研究所
小谷徳彦2002「瓦からみた紀ノ川流域の古代寺院」『帝塚山大学考古学研究所研究報告４』帝塚山大学考古学研究所
近藤康司1997「池田寺跡（明王院）」『古代寺院の出現とその背景』第42回埋蔵文化財研究集会 香芝市二上山博物館・埋蔵文化財研究会
近藤義行・梶本敏三・鷹野一太郎1979「久世廃寺第３次発掘調査概報」『城陽市埋蔵文化財調査報告書第９集』城陽市教育委員会
近藤義行ほか1980「久津川遺跡群」『城陽市埋蔵文化財調査報告書第９集』城陽市教育委員会
財団法人京都市埋蔵文化財研究所1988「42大宅廃寺」『昭和６年度京都市埋蔵文化財調査概要』京都市埋蔵文化財研究所
財団法人千葉県教育振興財団編2009『栄町龍角寺跡-首都県自然歩道整備事業埋蔵文化財調査報告書-』千葉県環境生活部
財団法人和歌山県文化財センター 2008『紀の国の歩み-財団法人和歌山県文化財センター発掘20年の記録-』
斎藤忠ほか編1962『石井』徳島県文化財調査報告書第五集 吉川弘文館
坂出市教育委員会2002『坂出市内遺跡発掘調査報告書』坂出市教育委員会
酒井仁夫・高橋章1984「豊前地方の８世紀代の軒瓦について-上坂廃寺出土瓦を中心に-」『九州考古学』第59号. 九州考古学会
坂田邦洋編1994『玉名郡衙』玉名市・秘書企画課
坂本太郎ほか1993『日本書紀』下. 岩波書店
貞清世里2011「川原寺式伽藍配置の検討」『西南学院大学大学院国際文化研究論集』第５号. 西南学院大学大学院
貞清世里2013「南海道の法起寺式伽藍配置をとる古代寺院の検討」『西南学院大学博物館研究紀要』創刊号. 西南学院大学博物館
貞清世里・髙倉洋彰2010「鎮護国家の伽藍配置」『日本考古学』第30号. 日本考古学協会
佐藤信2007「下野薬師寺の古代史」『栃木県立文書館研究紀要』第13号. 栃木県立文書館
真田廣幸1986「伯耆国大御堂廃寺考」『山陰考古学の諸問題』山本清先生喜寿記念論集刊行会
真田廣幸ほか2001『史跡大御堂廃寺跡発掘調査報告書』倉吉市文化財調査報告書第107集. 倉吉市教育委員会
真田廣幸・根鈴智津子2005「倉吉市大御堂廃寺の調査」『地方官衙と寺院-郡衙周辺寺院を中心として-』奈良文化財研究所
佐野勝廣1989「寺本廃寺の軒瓦について」『山梨考古学論集Ⅱ』山梨県考古学協会
滋賀県文化財保護協会編1993『南滋賀遺跡』滋賀県教育委員会文化財保護課
滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・滋賀県文化財保護協会編2001『一般国道161号（西大津バイパス）建設に伴う穴太遺跡発掘調査報告書Ⅳ』滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
篠原英政・田中弘志2001「弥勒寺跡・弥勒寺東遺跡-美濃国武義郡衙と郡寺-」『古代』第110号. 早稲田大学考古学会
柴田実1941『崇福寺阯』大津京阯・下. 滋賀県史蹟調査報告第10集 滋賀県
白石成二1992「古代総領制をめぐる諸問題-伊予総領を中心に-」『ソーシアル・リサーチ』5号ソーシアル・リサーチ研究会
城倉正祥・ナワビ矢麻・渡辺玲・青笹基史2017「下野龍角寺の発掘（Ⅱ期3次）調査―遺構編―」『プロジェクト研究』第12号. 早稲田大学総合研究機構
杉崎廃寺跡発掘調査団編1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』古川町教育委

員会
須田勉2013a「国分寺造営の諸段階-考古学から-」『国分寺の創建　組織・技術編』吉川弘文館
須田勉2013b『日本古代の寺院・官衙造営 長屋王政権の国家思想』吉川弘文館
妹尾周三2011「出雲へ伝わった仏教の特質-古代寺院から見た地域間交流とその背景-」『古代出雲の多面的交流の研究』島根県古代文化センター
多宇邦雄1998「龍角寺跡」『千葉県の歴史』千葉県
田川市教育委員会1990『天台寺跡(上伊田廃寺)』田川市教育委員会
竹石健二・澤田大多郎2009「川崎市影向寺境内(4)遺跡発掘調査報告-薬師堂西-」『竹石健二先生・澤田大多郎先生古希記念論文集』六一書房
太宰府市教育委員会2007『大宰府条坊跡32-般若寺周辺の調査-』太宰府市教育委員会
田中弘志2010『律令国家を支えた地方官衙・弥勒寺遺跡群』新泉社
谷口梢2010「丸亀市の古代寺院」『帝塚山大学考古学研究所研究報告』XII. 帝塚山大学考古学研究所
玉川文化財研究所編2007『川崎市宮前区影向寺遺跡第12次調査発掘調査報告書』宗教法人影向寺
田村圓澄2002『古代国家と仏教教典』吉川弘文館
田村圓澄2004「天武・持統朝における「国家仏教」の創出」『古代文化』第118号. 古代学研究所
筑穂町教育委員会1997『大分廃寺』筑穂町教育委員会
千葉県教育委員会1979『木下別所廃寺第二次発掘調査報告書』千葉県教育委員会
辻史郎2001「下総国結城廃寺の伽藍配置と瓦について」『古代』110号. 早稲田大学考古学会
辻本和美1996「南山城の古代寺院と瓦積み基壇」『京都府埋蔵文化財論集』第3集. 京都府埋蔵センター
東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会事務局編 1992『古代仏教東へ: 寺と窯』東海埋蔵文化財研究会
同志社大学歴史資料館2010『南山城の古代寺院』同志社大学歴史資料館
徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1999『石井城ノ内遺跡 石井・神山線地区-主要地方道石井・神山線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』徳島県埋蔵文化財センター
徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2000『石井遺跡-徳島県立名西高等学校施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-』徳島県埋蔵文化財センター
徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2003『石井城ノ内遺跡 石井曽我団地地区県営住宅(石井曽我団地)建設工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書』徳島県埋蔵文化財センター
鳥取県教育委員会1966『大寺廃寺発掘調査略報』鳥取県教育委員会
鳥取県教育委員会1967『大寺廃寺発掘調査報告書』鳥取県教育委員会
鳥取県立博物館2003『鳥取県立博物館所蔵古代寺院関係資料集』鳥取県立博物館
豊津町歴史民俗資料館編1996『豊前国の古代寺院展図録』豊津町歴史民俗資料館
中島正2010「高麗寺」『同志社大学歴史資料館調査研究報告　第9集　南山城の古代寺院』同志社大学歴史資料館
中島正編2011『史跡高麗寺廃寺Ⅱ』木津川市教育委員会
中林隆之1994「護国法会の史的展開」『ヒストリア』第145号. 大阪歴史学会
七尾市教育委員会文化課編1994『史跡能登国分寺跡整備事業報告書』七尾市教育委員会
七尾市教育委員会編2000『能登国分寺跡発掘調査報告書』七尾市教育委員会
奈良国立文化財研究所1960『川原寺発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第9冊　国立奈良文化財研究所
奈良県立橿原考古学研究所1977『法起寺境内発掘調査概報』奈良県立橿原考古学研究所
奈良県立橿原考古学研究所編1990『長林寺』河合町教育委員会
奈良文化財研究所2003『吉備池廃寺発掘調査報告書－百済大寺跡の調査－』奈良文化財研究所
奈良文化財研究所2004『川原寺寺域北限域の調査-飛鳥藤原第119-5次発掘調査報告-』奈良文化財研究所
橋本市教育委員会1977『和歌山県橋本市神野々廃寺跡緊急発掘調査報告書』橋本市教育委員会
花谷浩2010「古代寺院の瓦生産と古代山陰の領域性-出雲西部を中心に-」『出雲国の形成と国府成立の研究-古代山陰地域の土器様相と領域性-』島根県古代文化センター
羽曳野市教育委員会2004『羽曳野市内遺跡調査報告書-平成13年度-』羽曳野市教育委員会生涯教育部文化財保護課文化財保護係
浜田市教育委員会1990『下府廃寺跡発掘調査概報』浜田市教育委員会
浜田市教育委員会1993『下府廃寺跡』浜田市教育委員会
林博通1989『近江の古代寺院』近江の古代寺院刊行会
菱田哲郎1994「瓦当文様の創出と七世紀の仏教政策」『ヤマト王権と交流の諸相』名著出版
菱田哲郎2005a「日本列島の国家形成と宗教政策」『国家形成の比較研究』学生社
菱田哲郎2005b「古代日本における仏教の普及」『考古学研究』25巻3号 考古学研究会
菱田哲郎2007a「丹後地域の古代寺院」『丹後地域史へのいざない』思文閣出版
菱田哲郎2007b『古代日本国家形成の考古学』京都大学学術出版会
菱田哲郎・吉川真司2019『日本古代寺院史の研究』思文閣出版
飛騨市教育委員会編2012『杉崎廃寺跡2』飛騨市教育委員会
広島県教育委員会編1979『上山手廃寺発掘調査概報(1)』広島県教育委員会
広島県教育委員会編1980『上山手廃寺発掘調査概報(2)』広島県教育委員会
広島県教育委員会編1981『上山手廃寺発掘調査概報(3)』広島県教育委員会
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編1980『備後寺町廃寺-推定三谷寺跡第1次発掘調査概報』三次市教育委員会
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編1981『備後寺町廃寺-推定三谷寺跡第2次発掘調査概報』三次市教育委員会
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編1982『備後寺町廃寺-推定三谷寺跡第3次発掘調査概報』三次市教育委員会
広島県立歴史民俗資料館1988『平成10年度考古企画展ひろしまの古代寺院寺町廃寺と水切り瓦』広島県立歴史民俗資料館
広島県立歴史民俗資料館1999『広島県立歴史民俗資料館研究紀要』第2集 広島県立歴史民俗資料館
広瀬和雄1982『観音寺遺跡発掘調査報告書』大阪府教育委員会
廣瀬正照1984『肥後古代の寺院と瓦』廣瀬正照遺稿集刊行会
福井県埋蔵文化財センター 2009『第25回福井県発掘調査報告会資料』福井県埋蔵文化財センター
福山市教育委員会1977『史跡宮の前廃寺跡調査と整備』福山市教育委員会
藤井利章1984「河内国府と衣縫廃寺」『龍谷史壇』85. 龍谷大学史学会
藤井直正1978「讃岐開法寺考-国府と古代寺院」『史迹と美術』48. 史迹・美術同攷會
藤本誠2017「古代村落の「堂」研究の現状と課題」『民衆史研究』93号. 民衆史研究会
文化庁2009埋蔵文化財発掘調査報告第8『史跡末松廃寺』文化庁
埋蔵文化財研究会1997『古代寺院の出現とその背景』第42回埋蔵文化財研究集会　香芝市二上山博物館・埋蔵文化財研究会
前橋市教育委員会1982『山王廃寺跡第7次発掘調査報告書』前橋市教育委員会
前橋市教育委員会2007『山王廃寺跡-平成18年度調査報告-』前橋市教育委員会
前橋市教育委員会2010『山王廃寺-平成20年度調査報告-』前橋市教育委員会
町田甲一1977「法起寺の歴史」『大和古寺大観』第1巻. 岩波書店
松下正司1977「仏教文化の受容」『地方の古代史』2. 朝倉書店

松葉竜司2019「古代若狭における寺院造営の一様相」『日本古代寺院史の研究』思文閣出版
松本雅明・高野啓一1977「稲佐廃寺の伽藍配置」『熊本史学』50号. 熊本史学会
松本雅明1987『肥後の国府と古代寺院址の研究-松本雅明著作集(3)-』弘生書林
松本百合子2000「長林寺の創建瓦」『古代瓦研究Ⅰ』奈良国立文化財研究所
松山市教育委員会文化財課2012「来住廃寺39次調査現地説明会資料」
丸杉俊一郎2003「竹林寺廃寺跡」『静岡県の古代寺院・官衙遺跡』静岡県教育委員会
三重県教育委員会1980『昭和54年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会
水野正好編1980『道成寺』昭和54年度発掘調査報告書. 川辺町教育委員会
湊哲夫1992「４．大海廃寺」『美作の白鳳寺院』津山郷土博物館
湊哲夫・亀田修一2006『吉備の古代寺院』吉備人出版
三舟隆之1995「上淀廃寺と山陰の古代寺院」『出雲世界と古代の山陰』名著出版
三舟隆之2005「地方寺院の性格-氏寺説から-」『地方官衙と寺院-郡衙周辺寺院を中心として-』奈良文化財研究所
三舟隆之2013『日本古代の王権と寺院』名著刊行会
三舟隆之2016「出雲への仏教伝播経路-寺院造営技術の伝播-」『出雲古代史研究』第26号出雲古代史研究会
三舟隆之2019a「伽藍配置から見た興道寺廃寺」『美浜町歴史シンポジウム記録集13　復元！興道寺廃寺を取り巻く景色』美浜町教育委員会
三舟隆之2019b「地方寺院の法会-伽藍配置・仏像・経典-」『日本古代寺院史の研究』思文閣出版
美馬市教育委員会2006『郡里廃寺跡第３次発掘調査概要報告書』美馬市教育委員会
美馬市教育委員会2007『郡里廃寺跡第４次発掘調査概要報告書』美馬市教育委員会
美馬市教育委員会2008『郡里廃寺跡第５次発掘調査概要報告書』美馬市教育委員会
美馬市教育委員会2011「郡里廃寺跡第７次発掘調査概要報告書』美馬市教育委員会
宮崎哲治編2011『讃岐国府の時代』香川県埋蔵文化財センター
宮本長二郎1979「飛鳥・奈良時代寺院の主要堂塔」『日本古寺美術全集２』集英社
村田文夫1991「影向寺の創建と史的展開に関する素描-南武蔵の一古代寺院をめぐる調査研究の現状-」『三浦古文化』49号. 三浦古文化研究会
森郁夫1998『日本古代寺院造営の研究』法政大学出版局
森郁夫2009『日本古代寺院造営の諸問題』雄山閣
森郁夫・甲斐由美子2012『僧寺と尼寺』帝塚山大学出版会
森下衛1984「千代川・桑寺遺跡の発掘調査」『京都府埋蔵文化財情報』第12号　京都府埋蔵文化財調査研究センター
安井良三1991「丹波」『新修国分寺の研究』四. 吉川弘文館
山城町教育委員会編1989『史跡高麗寺跡』京都府山城町埋蔵文化財調査発掘書第7集. 山城町教育委員会
山路直充2013「龍角寺創建の年代」『古墳から寺院へ-関東の７世紀を考える』六一書房
山下歳信・阿久澤智和編2012『山王廃寺-平成21年度調査報告-』前橋市教育委員会
山下歳信・福田貫之・阿久澤智和編2011『山王廃寺-平成21年度調査報告―』前橋市教育委員会
山田猛2008「天花寺廃寺」『三重県史 資料編考古２』三重県
山梨県考古学協会編1989『山梨県考古学協会10周年記念論文集』山梨県考古学協会
結城市教育委員会1989『結城廃寺第１次発掘調査概報』結城市教育委員会
和歌山県教育委員会1977『和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野廃寺発掘調査概報』和歌山県教育委員会
和歌山県教育委員会編1991『和歌山県埋蔵文化財調査概報』平成2年度. 和歌山県教育委員会
和歌山県史編さん委員会1983『和歌山県史 考古資料』和歌山県
渡部明夫2002「開法寺式偏行唐草文軒平瓦について-香川における７世紀末から８世紀前半の軒平瓦の様相」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』２. 香川県埋蔵文化財センター

1　ここでは筆者が2019年８月までに確認したものをまとめている。表1・2のほか田島廃寺(熊本県菊池市)があるが、平安時代後期の年代が与えられているため本稿では扱わない。また、筆者が本稿をまとめるなかで、(三舟2019a)において各伽藍配置別寺院数の集計表が発表された。それによれば法起寺式は57か寺とある。三舟氏の研究成果も踏まえ、今後も引き続き集成・検討を行いたい。

2　(貞清2011)を参照されたい。

3　(貞清・高倉2010)ですでに述べている。

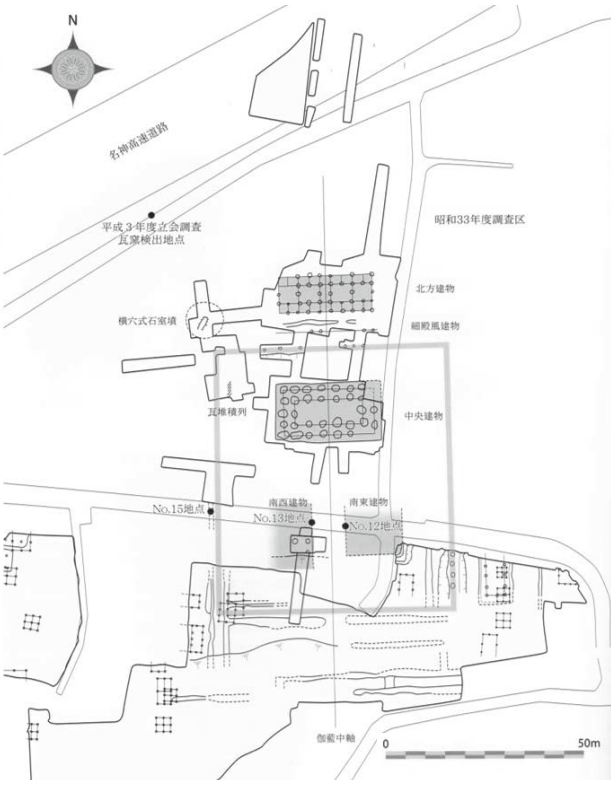
4　出雲地方には造瓦技術が伯耆西部(上淀廃寺式軒丸瓦)、備後北部(寺町廃寺式軒丸瓦)から導入されていることなどから、最初に建てられたと考えられる金堂の建立時点では他の堂塔の造営を計画していなかった可能性について触れている。また、伽藍配置の分布の際、丹波の三ツ塚廃寺(金堂の東西に塔を配置)を経由し、情報が二次的に出雲に伝わった可能性も考えられている(妹尾2011)。

5　観世音寺金堂については、東西／南北比とした。

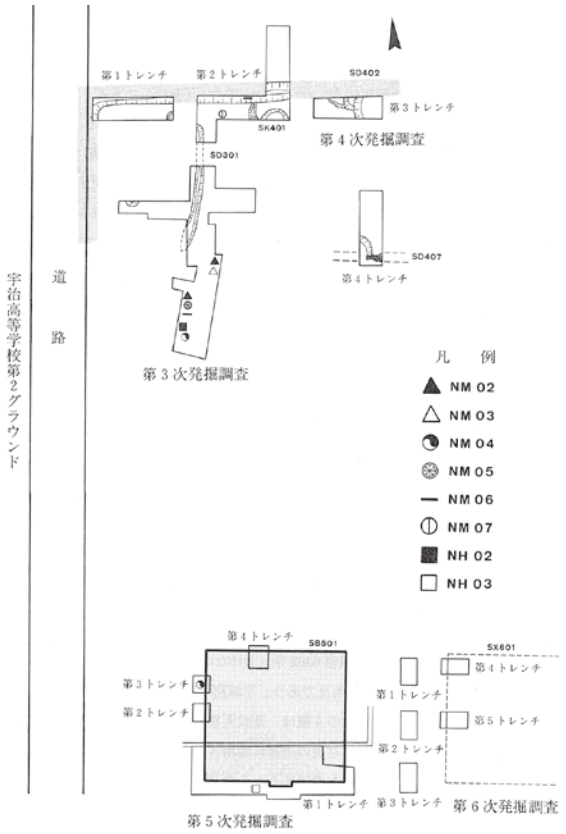
6　なお、高麗寺においては、伽藍整備初期のものではないが、中門が伽藍中軸線上ではなく金堂の南に位置している(中島2010)。

貞清　世里(さだきよ　せり)　　福岡市博物館市史編さん室　嘱託員

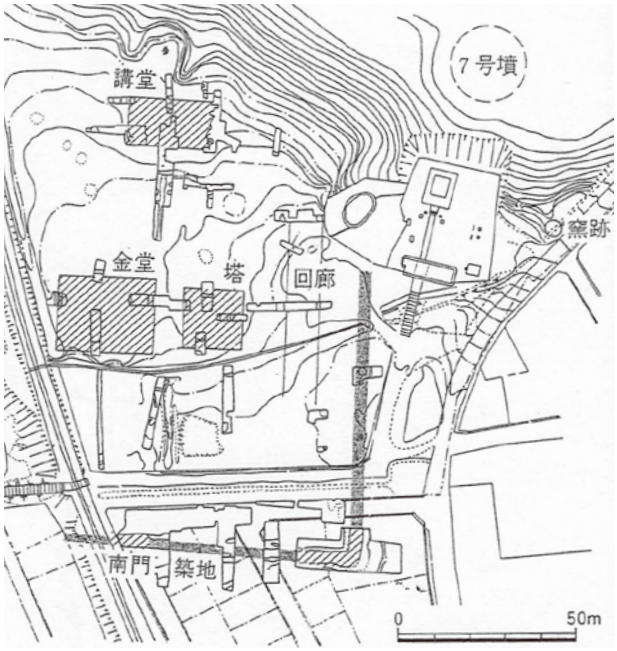
資料　法起寺式伽藍配置寺院集成１（縮尺任意）



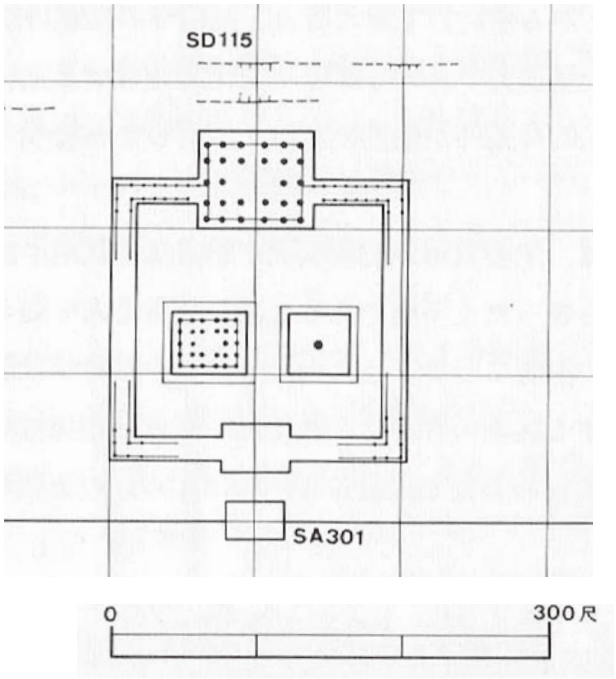
1．大宅廃寺
（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課編 2010）



2．大鳳寺跡（宇治市教育委員会編 1987）



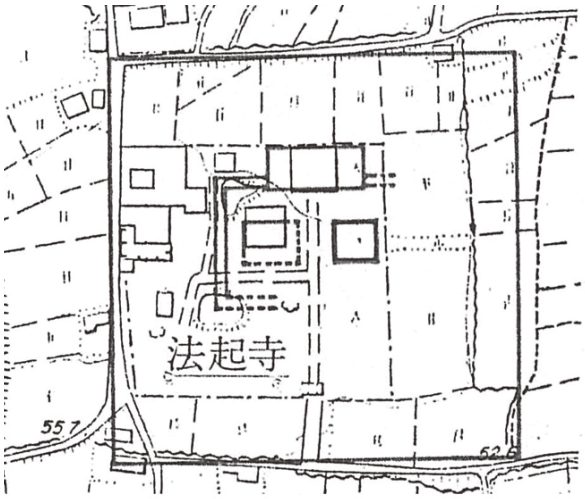
3．久世廃寺（同志社大学歴史資料館 2010）



4．高麗寺廃寺（山城町教育委員会編 1989 を改変）

資料　法起寺式伽藍配置寺院集成２（縮尺任意）

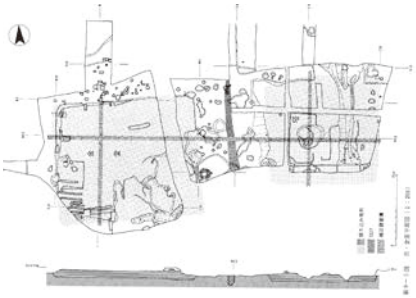
6. 燈籠寺廃寺（同志社大学歴史資料館 2010 を改変）



7. 法起寺（町田 1977 を改変）

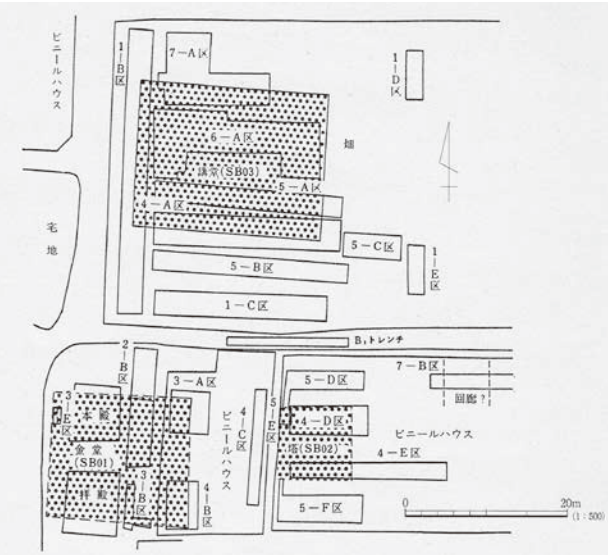
8. 長林寺廃寺
（奈良県立橿原考古学研究所編 1990 を改変）

9. 西琳寺（羽曳野市教育委員会 2004）



14. 天花寺廃寺
（三重県教育委員会 1980 を改変）

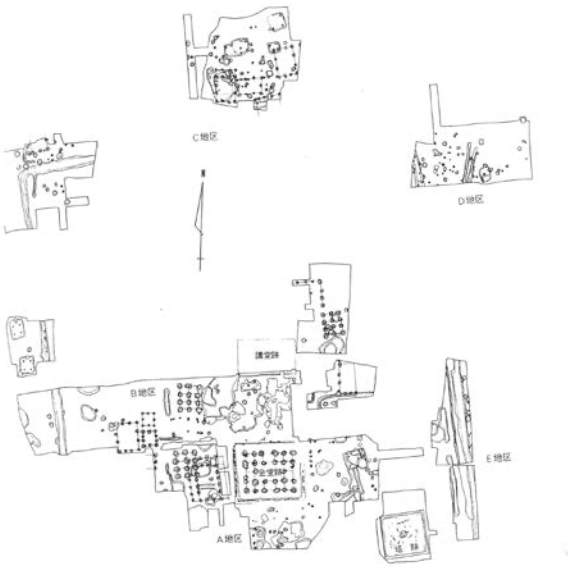
10. 衣縫廃寺（藤井 1984 を改変）



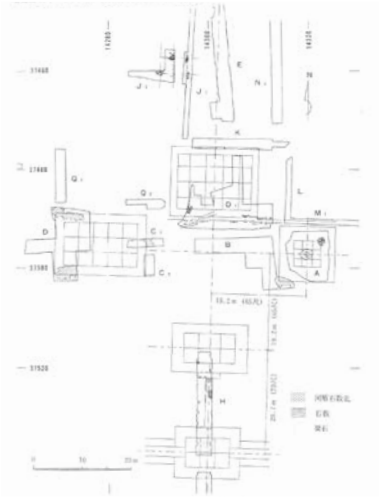
15. 東畑廃寺（愛知県史編さん委員会 2010 を改変）

資料　法起寺式伽藍配置寺院集成３（縮尺任意）

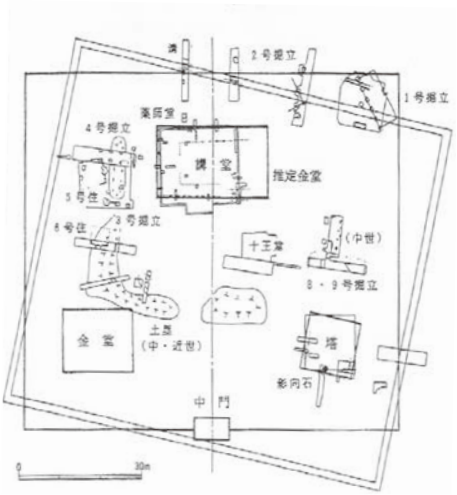
17. 尾羽廃寺（大川 2008 をトリミング）



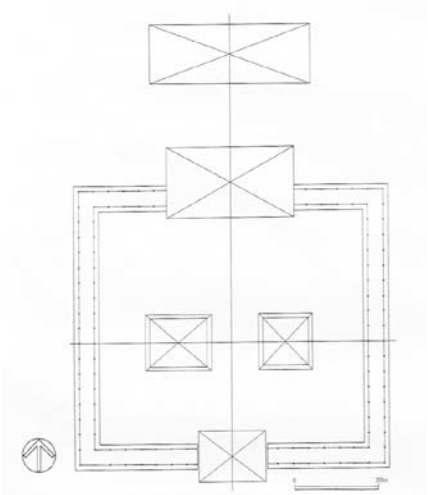
18. 竹林寺廃寺（丸杉 2003）



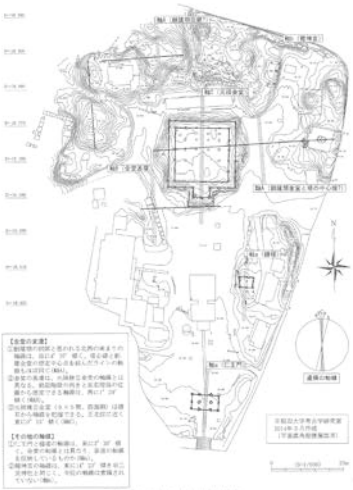
19. 寺本廃寺（春日居町教育委員会 1988）



20. 影向寺（玉川文化財研究所 2007）

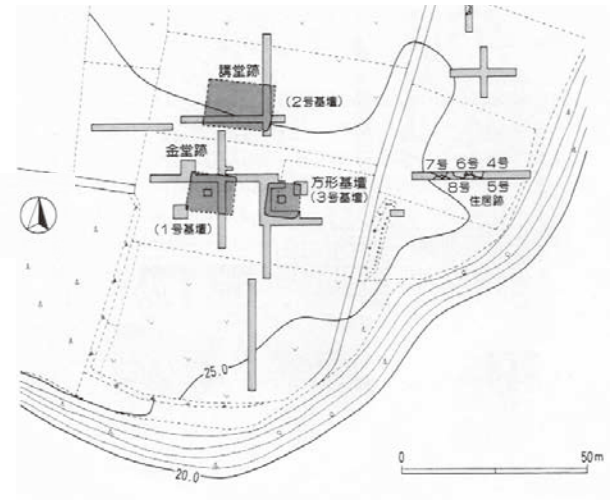


21. 結城廃寺（結城市教育会 1989）

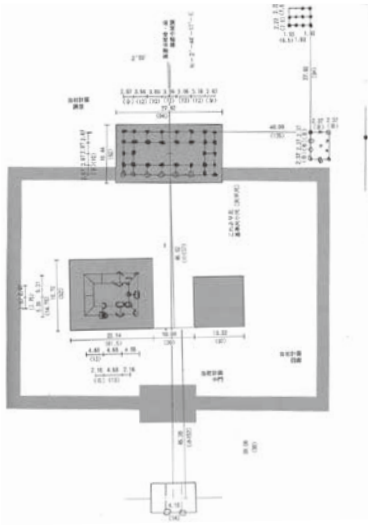


22. 龍角寺廃寺（城倉ほか 2017）

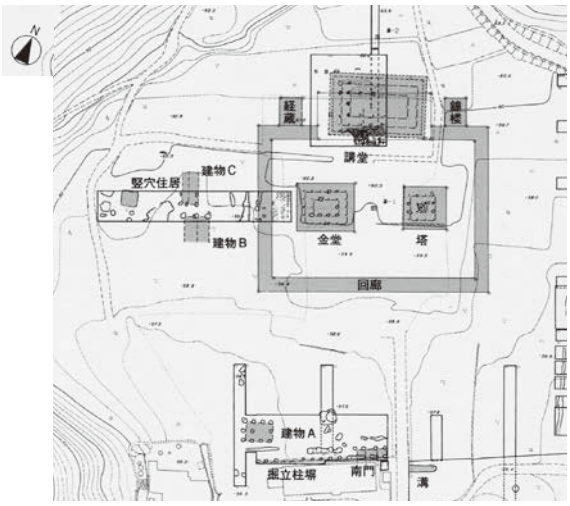
資料　法起寺式伽藍配置寺院集成 4（縮尺任意）



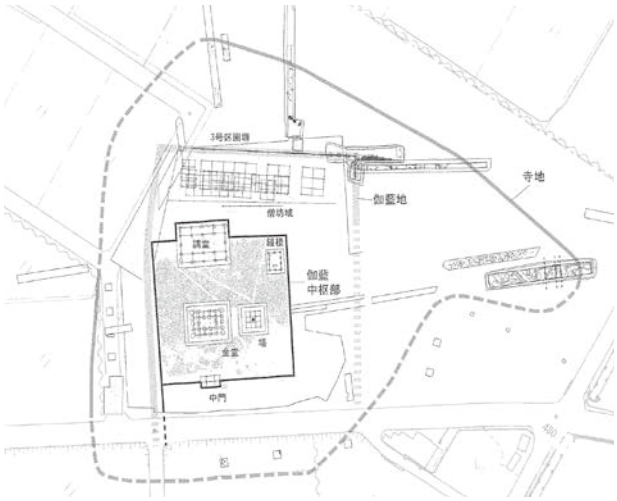
23. 木下別所廃寺（千葉県教育委員会 1979）



24. 穴太廃寺（再建寺院）
（滋賀県教育委員会事務局文化財保護課ほか編 2001）

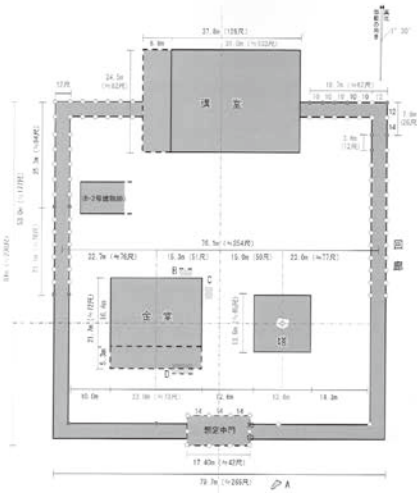


25. 弥勒寺跡（田中 2010 をトリミング）



27. 杉崎廃寺（飛騨市教育委員会 2012 をトリミング）

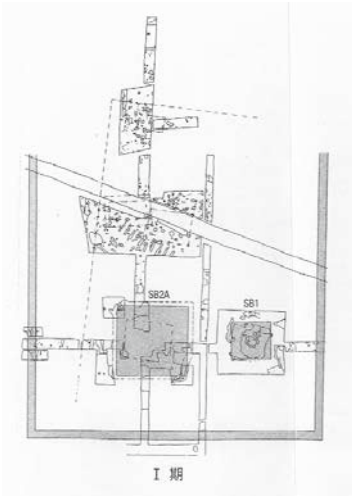
26. 山田寺（各務原市埋蔵文化財センター 2010 を改変）



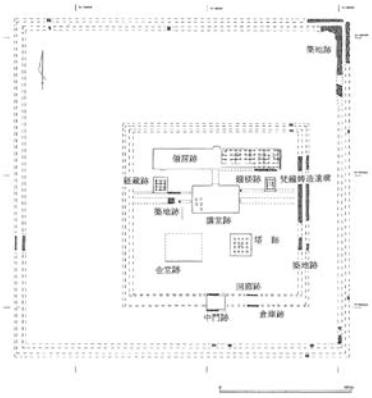
28. 山王廃寺（前橋市教育委員会 2010）

資料　法起寺式伽藍配置寺院集成５（縮尺任意）

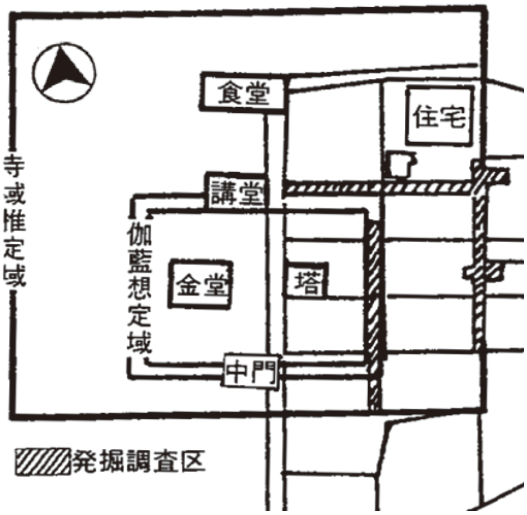
29・30　興道寺廃寺（松葉 2019 をトリミング）



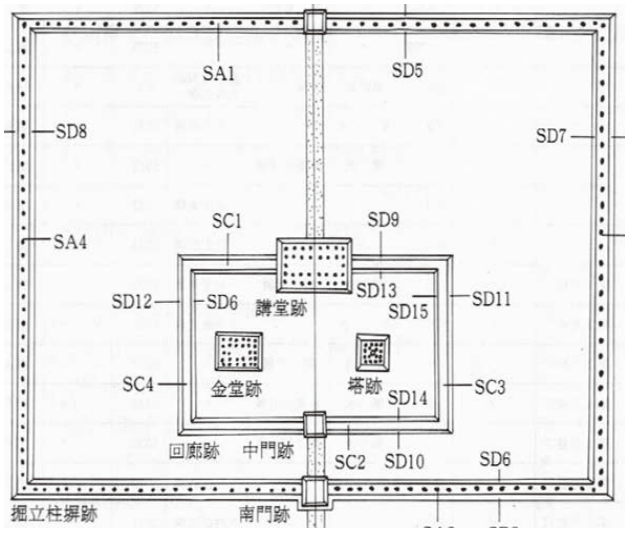
32. 末松廃寺（文化庁 2009）



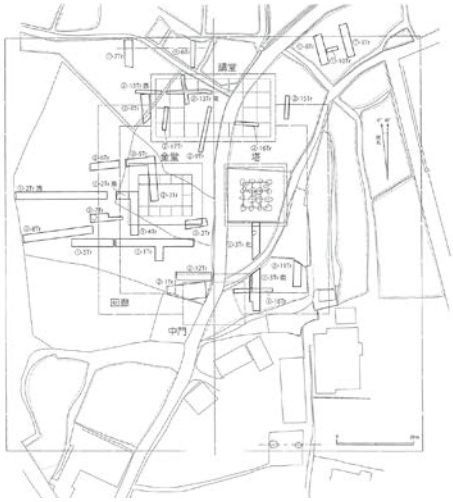
34. 丹波国分寺（亀岡市文化資料館 2005 をトリミング）



31. 弓波廃寺（加賀市教育委員会 1978 をトリミング）

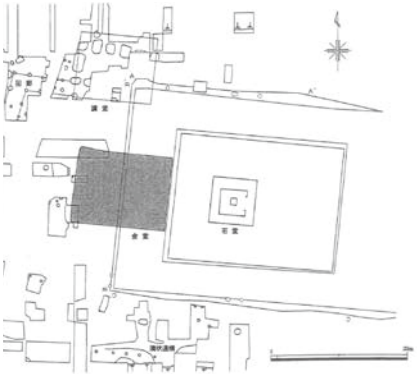


33. 能登国分寺（七尾市教育委員会 2000 をトリミング）

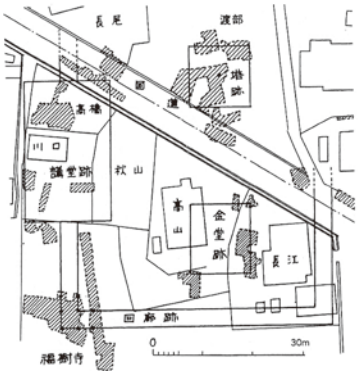


36. 土師百井廃寺（久保 2017）

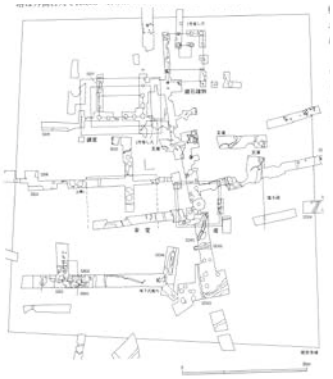
資料　法起寺式伽藍配置寺院集成６（縮尺任意）



38. 岡益廃寺
（鳥取県立博物館 2003）

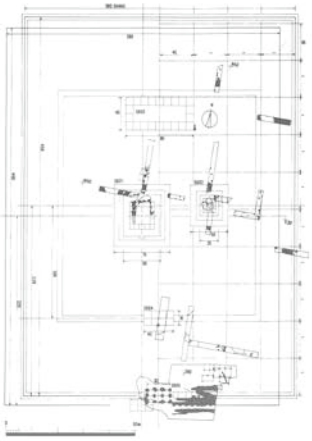


39. 大寺廃寺
（鳥取県教育委員会 1967）

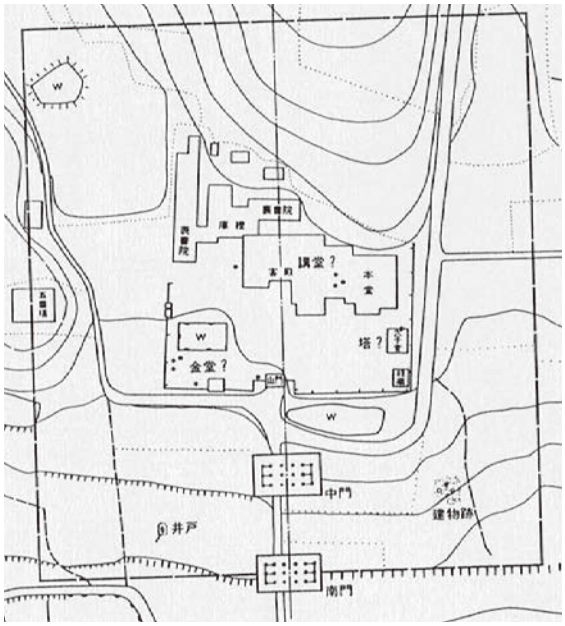


40. 大原廃寺（鳥取県立博物館 2003）

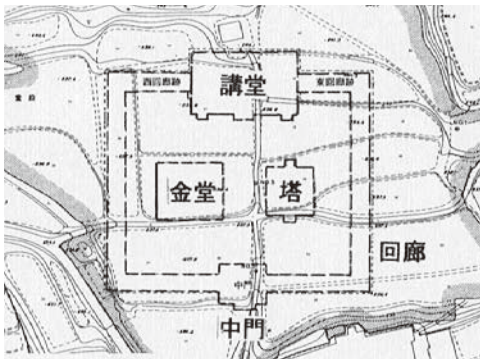
41. 下府廃寺（浜田市教育委員会 1993 をトリミング）



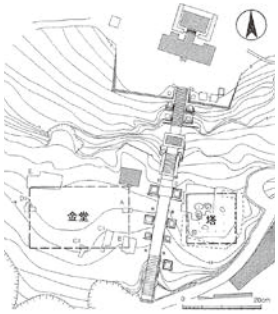
42. 大海廃寺（岡山県文化財保護協会 1979）



43. 備中国分寺（湊・亀田 2006）

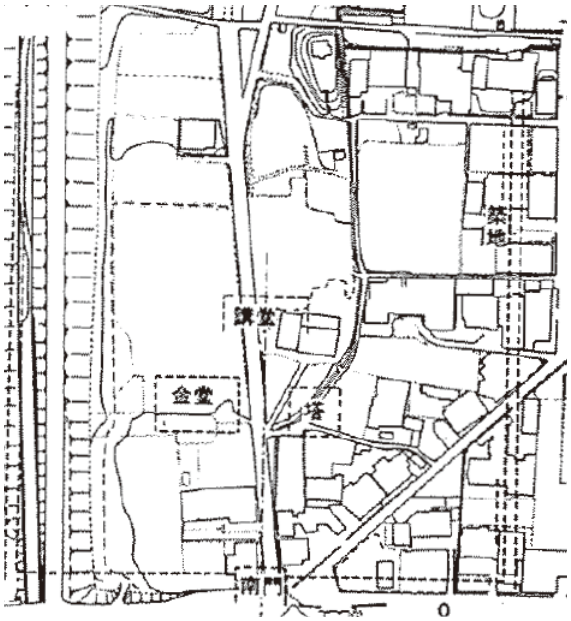


44. 寺町廃寺（湊・亀田 2006）

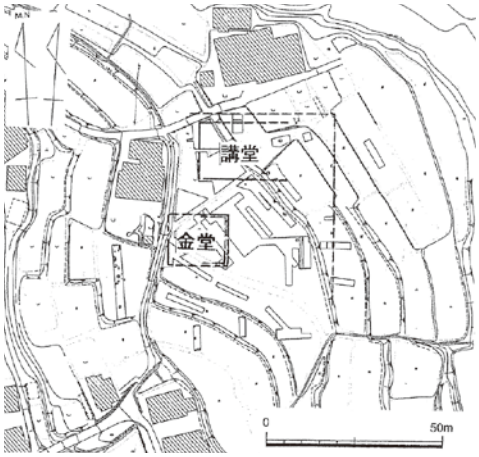


46. 備後宮の前廃寺（湊・亀田 2006）

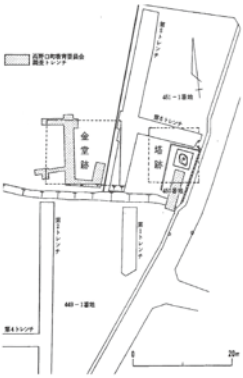
資料　法起寺式伽藍配置寺院集成７（縮尺任意）



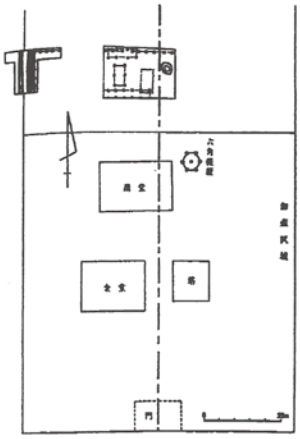
47. 備後国分寺（湊・亀田 2006）



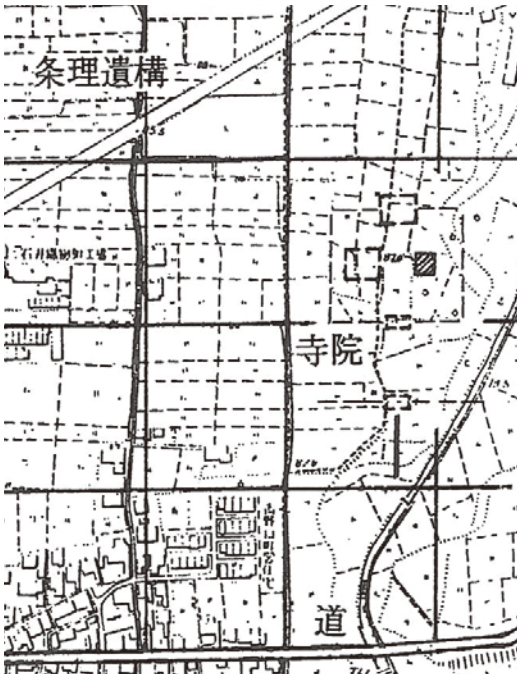
45. 備後上山手廃寺（湊・亀田 2006）



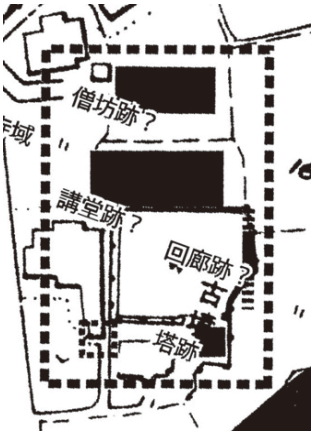
49. 名古曾廃寺
（和歌山県教育委員会編 1991）



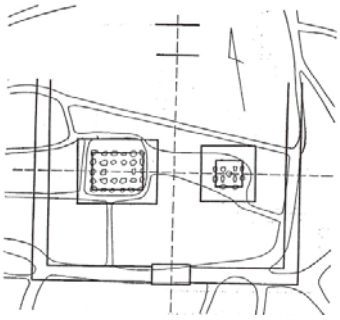
50. 佐野廃寺
（石松 2007）



48. 神野々廃寺（小谷 2002）



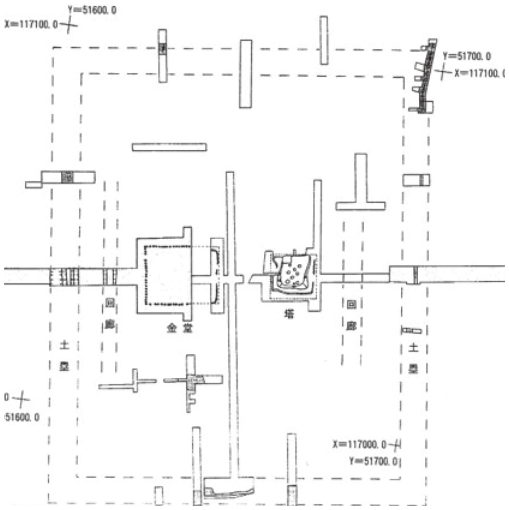
54. 開法寺
（香川県埋蔵文化財センター 2010）



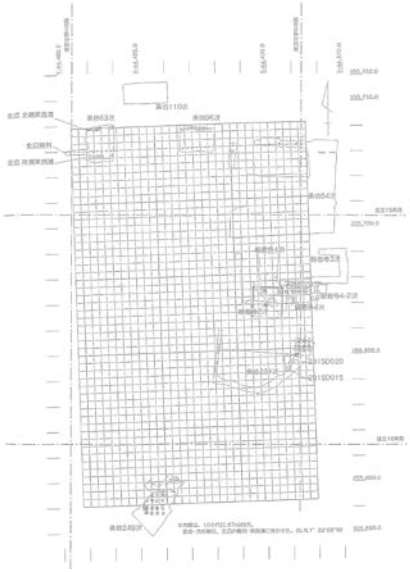
51. 石井廃寺
（斎藤ほか編 1962）

53. 白鳥廃寺
（香川県教育委員会 1983）

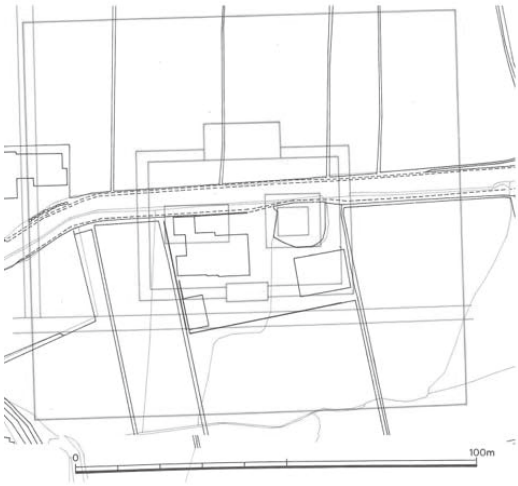
資料　法起寺式伽藍配置寺院集成８（縮尺任意）



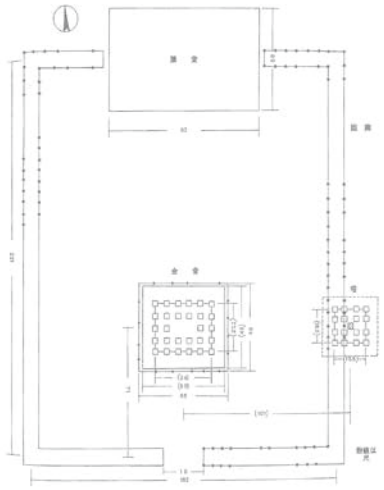
52. 郡里廃寺（美馬市教育委員会 2006）



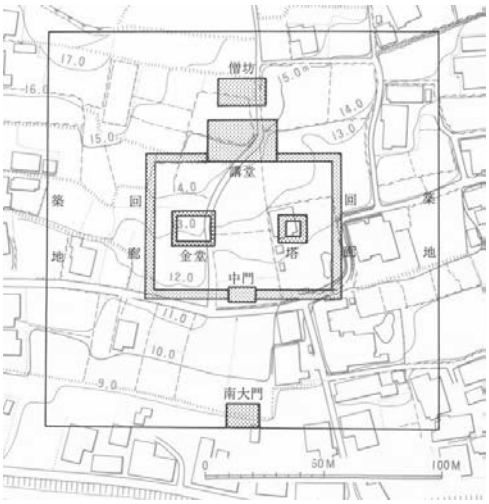
55. 般若寺（太宰府市教育委員会 2007）



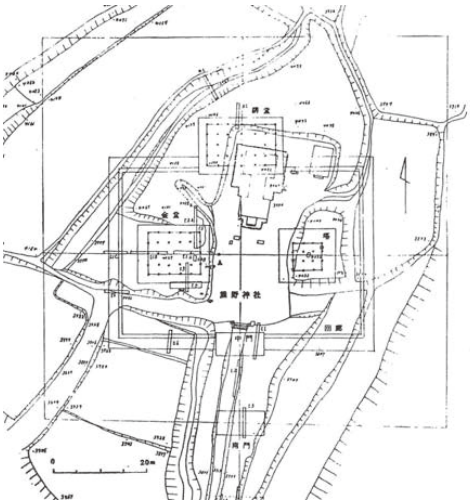
56. 大分廃寺（筑穂町教育委員会 1997）



57. 豊前天台寺（田川市教育委員会 1990）



59. 興善寺廃寺（熊本県教育委員会 1980）



58. 肥後稲佐廃寺（松本・高野 1977）